



Web Fairy Paradise

第165号

今月のフェアリー詰将棋

- ・ 第139回 WFP 作品展(再掲)
- ・ 第140回 WFP 作品展
- ・ 第1回最後の1ピース作品展(再掲)
- ・ 第3回フェアリー入門(協力白玉詰)
- ・ 推理将棋第148回出題

結果発表

- ・ 第138回 WFP 作品展
- ・ 第15回神無太郎の氾濫 解答編
- ・ 第2回フェアリー入門(受先協力詰)
- ・ 推理将棋第146回出題

読み物

- ・ 実験室の悲劇(第4回)(占魚亭)
- ・ 打歩協力詰超入門
- ・ 協力詰・協力白玉詰解付き出題作品募集(駒井めい)
- ・ FairyTopIX2021 お気に入り投票要項
- ・ 今月の手筋(持駒譲渡)



2022/3



ロシアのウクライナ侵攻

コロナウイルス・オミクロン株がまだまだ高止まり状態で大変な状況ですが、先月下旬よりロシアがウクライナに軍事侵攻し所謂戦争状態となってしまいました。軍事侵攻というと攻撃するのは軍事施設などだけだと思っていたのですが、ニュースを見ていると小児病院やテレビ塔、空港、集合住宅など軍事施設以外にも容赦なく砲弾が飛んできています。一般市民を含む死者数 1.5 万人、国外避難民 300 万人超。ウクライナの人口は 4413 万人ですので 1 割弱の国民が避難されているわけで想像を絶する状況と言えます。本当に心が痛みます。

今後どのような終息を迎えるかはわかりませんが、荒れ果てた国土を復興するだけでも何十年の時間と費用がかかるだろうし、普通の生活に戻るといふ当たり前の事を希望として生きていかなければならない。私は今 60 代ですが、この年でこのような状態になったとすると死ぬまで幸せを感じることは出来ないのではないかという絶望さえ感じます。戦争は誰も幸せになりません。ウクライナの復興時にはたくさんの方の愛の手を差し伸べて・・・と思わずにはられません。

ウクライナの国旗は、青色は空を、黄色は大地の小麦を象徴し実り豊かな農業を表わしています。早く国旗のような幸せな状態になることを祈ります。

コロナに戦争……。世の中は試されているのでしょうか？

作品

フェアリー作品、PG、推理将棋はそれぞれの投稿先へ投稿下さい。

読み物

フェアリー詰将棋に関するものに限らず日常のことも研究物でも 4 コマ漫画からパロディ、イラスト、マイベスト 10、自己紹介、何でも OK です。

感想

第 165 号の感想、今後の要望、ご意見等なんでも結構です。是非メールにて私まで

皆様の反応が私の意欲に成りますので是非ご協力をお願いします。

読み物、感想の投稿はこちらまで

たくぼん : takuji@dokidoki.ne.jp

協力いただいている方々の HP アドレス

*ご協力感謝します

妖精都市

<http://cavesfairy.gl.xrea.com/pub/>

詰将棋メモ

<http://toybox.tea-nifty.com/>

詰将棋おもちゃ箱

<http://www.ne.jp/asahi/tetsu/toybox/>

Onsite Fairy Mate

<http://k7ro.sakura.ne.jp/>

K.Komine's Home Page

<http://19900504.web.fc2.com/index.html>

フェアリー時々詰将棋

<http://fairypara.blog.fc2.com/>

占魚亭残日録

<https://sengyotei.hatenablog.com>

まずは収束。26 手目 46 仲とした局面です。

12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
										本	皇	一
										金	凶	二
										銅	虎	三
										歩	歩	四
												五
												六
												七
												八
												九
											龍	一〇
												一一
												一二

(26手目46仲の局面)

花沢氏はここで 17 奔の解を選んでいますが、46 仲を「同奔」と取る詰め方もあります。

(27 手目から)

同奔 35 歩 同奔 24 銅 同奔 まで 31 手

花沢氏が 17 奔の手順を選んだのは奔鋸の目的が 17 奔の実現だからだと思いますが、この連続合も自然な手順です。中将棋では取られた駒は盤上から消えるだけなので、無駄合かどうかを気にする必要はありません。

しかし、無駄合の概念がある詰将棋でもこのような連続合は可能です。有名な例としては三代伊藤宗看「将棋無双」第 96 番の 5 連続移動合が挙げられます。この作では「退路開け」を目的とすることによって、タダで取られる駒が無駄合になることを防いでいます。

三代伊藤宗看は詰将棋だけでなく詰中将棋も作っています。従って、詰中将棋の手順の詰将棋への移植や、その逆を行っていたと考えられます。中将棋は将棋の近縁ルールなので、詰中将棋と詰将棋の手筋や構想は相互に移植可能性が高いのです。

移植可能性の観点から別の手にも着目しましょう。6 手目 61 飛の移動合です。

これは「1107 ク」の利きを通し、61 飛を取られたときに 51 馬の受けを用意した手です。この種の移動中合は詰将棋にもありますが、詰中将棋では「持駒」がないので、強力な駒を気前よく移動中合で捨てることができます。

12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						奔	鋸			王	皇	一
										皇	凶	二
										皇	皇	三
										皇	皇	四
										皇	皇	五
												六
												七
												八
												九
											龍	一〇
												一一
												一二

(6手目61飛の局面)

この移動中合はまるで打診中合にも見えます。「打診」は成・不成の選択を迫る着手に使われる言葉ですが、ここでは「二つ以上の取り方がある」という広い意味に使いましょう。この局面では「同奔」と「同鳳成」の2つの取り方があるので、それを選ばせる意味での「打診」です。

面白いのは「打診」に対する回答を攻方が一旦保留する所です。先に 42 馬を消して 51 馬の受けをなくしてから「同鳳成」という保留していた回答を返すのは味がありますね。

「打診」に対する「保留」はそれ自体が興味深いテーマですが、もし「保留」に「打診」を入れたらどうなるでしょう？ 更に「打診」を多重化したら？ 最後の「打診」に対する答えで、途中の「打診」に対する答えが逆算的に決まるような手順が実現可能でしょう。

また、9 手目同鳳成は 3 手目 43 鳳生と呼応しています。中将棋はルール上、一度不成とした駒を簡単に成ることはできません。6 手目 61 飛は攻方が放棄した「成」の権利を、敢えて攻方に与えるという意味でも妙手です。これを詰将棋に移植すると、どんな作になるのでしょうか？

花沢正純氏の解はカピタン 12 号に収録されており、ここでは触れなかった妙手についても解説されています。奔鋸はあくまで手順の一部であり、それ以外の手順も高度です。作者不知とありますが、確かな腕前を持つ作者の作品でしょう。カピタン 12 号をお持ちでない方は「伝承」のページ (<http://cavesfairy.g1.xrea.com/guide/>) で当該号をご一読ください。

さて、今回は第 139 回の再掲載分と、第 140 回の新規出題分です。第 140 回には馬鋸作品も登場します。約三百年前の馬鋸と現代の馬鋸。詰将棋を通した古人と現代人の繋がりを感じてください。

〔第 139 回作品展各題への補足説明〕(再掲)

第 139 回の出題は全 12 題 (ツインを含むため実質 13 題)。今回登場する作者は小林看空氏、占魚亭氏、神無太郎氏、馬屋原剛・久保紀貴・藤原俊雅・kisy 氏 (合作)、駒井めい氏、springs 氏、上田吉一氏、変寝夢氏の 8 名 (組) です。

これまで複数解作品は解数分を成績に計上していたのですが、今回の複数解作品 (139-7) は解が多く、解図難度も高くないと思われるので、全体で 1 問扱いとします。頑張っただけの解を求めてください。

139-1 は小林看空氏のライフル作品群のトリを飾る作品です。これまでも登場した手筋、今回のシリーズでは初登場となる手筋が含まれています。どうぞお楽しみに。

139-2 及び 139-3 は占魚亭氏の Imitator 作品。139-2 は達成目標が「詰」ではなく「ステイルメイト」なので、19 王を動けなくすることを第一に考えてください。139-3 は Imitator の位置が少し違うだけのツインですが、手順は大きく異なります。点鏡ルールとの組み合わせなので、解図は大変だと思いますが、頑張ってください。

139-4~139-6 は前回の 138-5 及び 138-6 に引続き、神無太郎氏の点鏡と Grasshopper(G) を組み合わせた作品です。例によって標準駒に G 4 枚が追加されており、受方持駒の G は全て使うとは限りません。点鏡らしく、盤上にどんどん駒が発生します。

139-7 は馬屋原剛・久保紀貴・藤原俊雅・kisy 氏の 4 氏のコラボ。解が 7 つあるので、全部求めてください。「北斗七星」の命名もヒントになりますね。

139-8 は駒井めい氏の作品。「受先」なので初手の紛れが多いですが、詰上りを上手く想定して、読みの量を減らしましょう。

139-9 は Siren (汝) を使った springs 氏の作品。攻方駒が汝王しかありませんが、汝王は汝王に王手を掛けることができるので問題ありません。この駒は初めてという方は WFP135-9 を参考に解図してください。

139-10 は前回に引き続き上田吉一氏による単玉形式の協力自玉ステイルメイトです。難し

く考えず、一気に解いてしまいましょう。

139-11 及び 139-12 は変寝夢氏のレトロ作品。ただし、通常のレトロ協力自玉詰・レトロ協力詰ではなく、それぞれ「禁欲」「強欲」の条件が付いています。逆算手順にもそれらの条件が適用されるのでお忘れなく。

〔第 140 回作品展各題への補足説明〕

第 140 回の出題は全 9 題 (ツインを含むため実質 11 題)。今回登場する作者は神無太郎氏、占魚亭氏、たくぼん氏、上田吉一氏、springs 氏、藤原俊雅氏、変寝夢氏の 7 名です。

いつもに比べ出題数が少ないので全題正解を狙うチャンスですが、見慣れないルールの作品や、難解作もありますので、油断はできません。十分な解図時間を確保して臨んでください。

140-1 及び 140-2 は点鏡と Grasshopper(G) を組み合わせた神無太郎氏のシリーズ作品です。例によって標準駒に G 4 枚が追加されており、受方持駒の G は全て使うとは限りません。これまでと同様、盤上にどんどん駒が発生します。

140-3 は占魚亭氏の全 Andernach 作品。久々に Imitator がないので、安心した方もいるでしょう。本作品展では WFP119-6 及び WFP120-9 (変寝夢氏作) で全 Andernach の作品が登場しているので、参考にしてください。また、本局には解が 2 つあるので、なるべく両方をお答えください。

140-4 は、たくぼん氏による連続協力詰。受方が連続で 20 手指して 1 手詰となる形を作ってください。桂による吊るし詰しか詰める方法がないことは明白ですが、その形を作るのはちょっと骨が折れそうですね。

140-5 は「不滅銀」を使った上田吉一氏の作品。これは「取らずの銀」という変則将棋が元になっており、カピタン 10 号では以下のように紹介されています。

「取らずの銀」という将棋をご存じでしょうか。後手は普通の形から始めますが、先手は玉のほかは銀 1 枚だけの 18 枚落ち。ところがこの銀が不滅銀で後手は取ることができない、というルールでスピードを争う将棋になります。

同じ号では、この「取られない」という性質を金に適用した「不滅金」の作品が出題されました。

加藤徹 作
詰将棋 19手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

								王	一
							と		二
							と	と	三
								と	四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 桂2歩2
※金:不滅金
(カピタン10号,1977年6月)

32 と右 11 玉 23 桂 同金 12 歩 同玉
24 桂 11 玉 21 と 同玉 32 と直 11 玉
21 と 同玉 31 と 11 玉 12 歩 22 玉
32 と上 まで 19 手

本作品展では上記作品の呼称に合わせ、「取らずの銀」ではなく、以下の用語を使用します。

- ・取られない性質を「不滅性」と呼ぶ
- ・不滅性が付与された駒を「不滅駒」と呼ぶ
- ・不滅駒は「不滅+駒名」で表す

また、「取らずの銀」にはいくつかのローカルルールや変種があるようなので、不滅駒の細則を以下のように定めます。

- 1)成っても不滅性を失わない
- 2)初形でも不滅駒は持駒にできない

これはあくまで省略時解釈とし、成ると不滅性を失う場合や、不滅駒を持駒とする場合はそれを明示して出題することとします。

本作品展では初出となるルールですので、長々と説明しましたが、内容は難しくありませんね。本局で「取られない駒」の活躍をお楽しみください。

140-6 は **139-9** に引続き Siren (汝) の利きを持つ玉を使った springs 氏の作品。今回は汝王以外にも攻方駒があるので、狙いをうまく見定めないと紛れに悩まされるでしょう。汝王の性質を上手に使う詰上りを探してください。

140-7 は藤原俊雅氏の受先作品。難しくはないと思いますが、とても珍しい狙いを持った作品です。2 解あるので、なるべく両方を答えてください。

140-8 及び **140-9** は変寝夢氏の協力自玉詰。とは言っても、ただの協力自玉詰ではなく「へ

ルプセルフ」という条件が付いています。これは最終手に相手側が協力してくれないことを示します。相手が応手を選択する余地がない（あるいはどんな応手を選んでも詰む）詰型を目指してください。本作品展では **WFP101-11** で同様の条件が使われているので、参考にしてください。

解答要項

第 139 回分解答締切:2022 年 4 月 15 日(金)

第 140 回分解答締切:2022 年 5 月 15 日(日)

宛先: **k7ro.ts@gmail.com** (メールの件名に「解答」の語句を入れてください。)

解答メールが届かない場合は掲示板 (<http://k7ro.sakura.ne.jp/wait.html>) やブログ (<http://k7ro.sblo.jp/>) でお知らせください。

作品投稿について

作品投稿は随時受け付けます。原則として毎月 15 日の投稿まで当月号に掲載しますが、投稿作が一回の出題数(12 題)を越えた場合、出題時期を調整させていただきます。

宛先は解答と同じ **k7ro.ts@gmail.com** へ。

メールの件名に「作品投稿」の語句を入れてください。添付ファイルも可。機械検討済みなら出力結果のファイル添付を推奨します。

ルール説明

※WFP のページにまとめ資料 (<http://www.dokidoki.ne.jp/home2/takuji/wfprule137.pdf>) があるので、それも参考にしてください。

【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

【ライフル】

駒を取ったとき、取った駒が元の位置に戻る。(補足)

Rifle Chess の翻案。

本来は「居ながらにして利き先の駒を取れる」であるが、「取った後で元の位置に戻る」とも解釈できる。ここでは成・不成の選択ができるよう後者の解釈を採り、以下の細則に従うものとする

1)駒取り時、駒が戻るまでを一手とみなす。駒を取った瞬間だけ「自玉への王手」となったり、「行き所のない駒」になったりしても構わない。

2)生駒による駒取りで「現位置」「駒取り地点」のいずれかが可成地域にある場合、成・不成

を選択できる。

→参照：WFP159号（第135回WFP作品展）

【スタイルメイト】

王手は掛かっていないが合法手のない状態にする。

【協力自玉スタイルメイト】

先後協力して最短手数で攻方をスタイルメイトにする。

【Imitator】（■またはI）

着手をしたとき、その着手と同じベクトルだけ動く駒。このImitatorが駒を飛び越えたり、駒のある地点に着手したり、盤の外に出たりするような着手は禁止。これは王手の判定にも適用される。

（補足）

- ・駒を打ったときは動かない。
- ・Imitatorは元の駒と同時に動く

→参照：WFP75号「Imitatorの紹介」

【中立駒】（「n駒」あるいは「n駒」）

どちらの手番でも動かせる駒。

（補足）

横向きの字か横にnを付加して表記。

取り方や動かし方は以下の細則に従う

- 1) 中立駒の動きは現手番の駒としての動きとなる（利きが非対称な駒の場合に要注意）
- 2) 中立駒は現手番の駒として成れる場合のみ、成ることができる
- 3) 中立駒はどちらの手番でも取ることができ、持駒になる。この時、所属は取った側の持駒だが中立性は失わず、再び盤に戻ったときには中立駒として振舞う。
- 4) 中立駒は現手番側の駒を取れない。相手側の駒や、中立駒は取れる。
- 5) 中立歩による打歩詰は禁止。二歩禁も適用される。手番を問わず、中立駒の歩や通常の歩がある筋に、更に中立駒の歩を打つことはできない。
- 6) 中立駒は行き所ない駒にならない。
- 7) 中立駒でも自玉への王手は反則。自玉への王手となっているかどうかの判定は、現手番が終了し、相手側が着手する前に行く。

→参照：WFP61号「中立駒の紹介」

【点鏡】

55に関して点対称な位置にある2つの駒は、敵味方関係なく互いにその性能が入れ替わる。

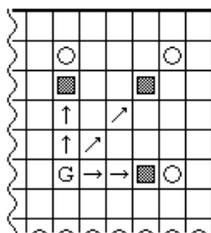
（補足）

- ・行き所のない駒の禁則は適用されない

→初出：第108回WFP作品展（WFP127号）

【Grasshopper】（G）

フェアリーチェスの駒。クィーンの線上で、ある駒を1つ飛び越したその直後の地点に着地する。そこに敵の駒があれば取れる。



（○がGの利き）

（補足）

- ・飛び越える駒は敵味方どちらでもよい。
- ・パオと違って飛び越さないと動けない。動ける場所も飛び越えた駒の隣だけ。
- ・成ることはできない。
- ・2つ以上の駒は飛び越せない。

【取禁】

手順中に駒を取る手があってはならない。

【n解】

解が複数あり、指定されたn個の解を求める出題形式。

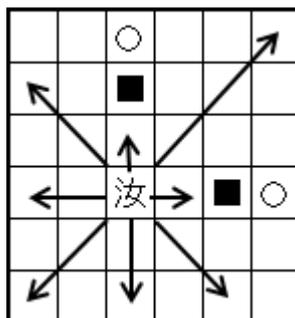
【受先】

受方から指し始める。

【Siren】（汝）

フェアリーチェスのSiren（汝）。

駒を取らないときはQueenの動き。駒を取るときはLocustの動き（Queenの利きの方向にある敵駒を跳び越えその1つ先の空きマスに着地し、跳び越えた敵駒を取る）。



（矢印が駒を取らない時の動き。○が駒を取る時の移動先。

■は敵駒。これを取って○に行く。■が味方の駒だったり、○の地点が埋まっていたりするとそこには行けない。）

→初出：第102回WFP作品展（WFP119号）

【強欲】

駒を取る手を優先して着手を選ぶ。

【禁欲】

駒を取らない手を優先して着手を選ぶ。

【協力自玉詰】

先後協力して最短手数で攻方の玉を詰める。

【レトロ -m+n 手】

m 手逆算して n 手で詰む手順を求める。

(補足)

- 1)特に注釈のない場合、逆算も攻方王手義務があることを前提とする
- 2)協力系の場合逆算も双方が協力する。また、指定より短い手数 of 逆算や短い手数の詰手順が成立する場合、それが優先される。

【全 Andernach】

玉以外の駒は、盤上の移動を行うと、着手後に相手の駒となる。

(補足)

- ・細則は Andernach と同様で「駒取り」を「盤上の移動」に読み替える。
- 1)盤上の移動で二歩になる場合、相手の駒にならない。
 - 2)相手の駒になるのは成生の選択後。
 - 3)盤上の移動では、相手陣二段目への桂の不成、一段目への桂香歩の不成が可能（二歩の例外を除く）。

→初出：第 119 回 WFP 作品展 (WFP140 号)

【連続協力詰 n+1 手】

受方が連続して n 手指し、攻方が 1 手で詰められる局面を作る。ただし、途中で王手を掛けてはいけない。

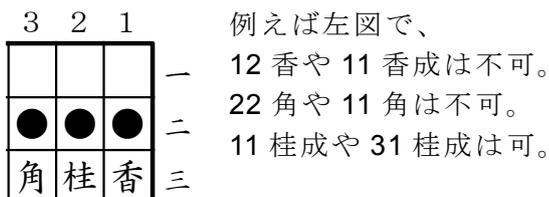
(補足)

- ・指定より短い手数で 1 手詰の形が作れる場合、それが優先される。

【石】(●)

不透過・不可侵の領域を表す。

跳び越すことは可能。



【不滅駒】

取られることのない駒。

この性質を「不滅性」と呼び、不滅性を与えられた駒を「不滅」+「駒名」で呼称する。

(補足)

特に注釈がない場合、以下の細則を適用する。

- 1)成っても不滅性を失わない
- 2)初形でも不滅駒は持駒にできない

【ヘルプセルフ】

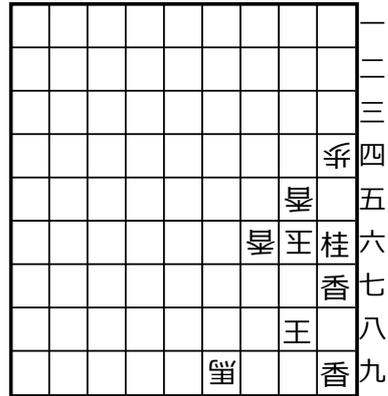
最終手はどんな着手をされても目的を達成できなければならない。

→初出：第 60 回 WFP 作品展 (WFP68 号)

■ 139-1 小林看空氏作

ライフル協力詰 9手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

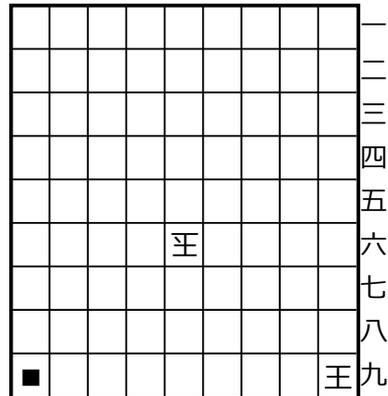


持駒 桂2

■ 139-2 占魚亭氏作

協力自玉スタイルメイト 6手

9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 n飛

※ ■ :Imitator
玉以外はすべて中立駒



■ 139-8 駒井めい氏作

協力詰 6手 (受先)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

			桂	銀					一
			銀	桂					二
		銀		王	歩				三
			王		銀				四
							桂		五
			銀	王					六
									七
				銀					八
				飛					九

持駒 金

■ 139-9 springs 氏作

協力詰 9手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

								王	一
									二
									三
									四
					王				五
									六
					王				七
					銀				八
								王	九

持駒 なし

※王:Siren王

■ 139-10 上田吉一氏作

協力自玉スタイルメイト 76手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

と	と	と				と		龍	一
と	と	と		王			歩		二
と	と	と						香	三
と	と	と				桂	桂		四
と	と	と	香	金		角	銀		五
								桂	六
	角	飛		歩			銀		七
		金		金		金		桂	八
	香		銀		銀		香		九

持駒 なし

■ 139-11 変寝夢氏作

禁欲レト口協力自玉詰 -4+2手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

				王					一
			王						二
				王					三
				王	角				四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

■ 139-12 変寝夢氏作

強欲レト口協力詰 -2+1手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

								桂	一
									二
							歩	王	三
									四
								王	五
									六
									七
									八
									九

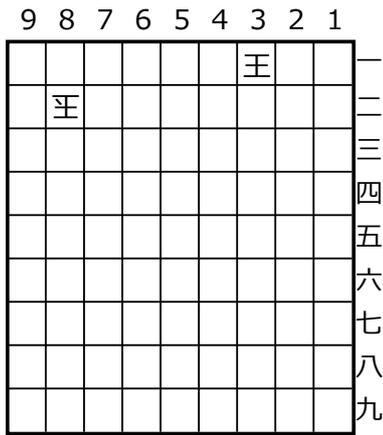
持駒 なし



<第 140 回>解答締切:2022 年 5 月 15 日(日)

■ 140-1 神無太郎氏作

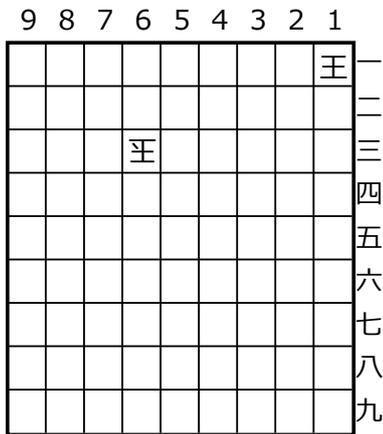
点鏡協力自玉スタイルメイト 8手



攻方持駒 金G
受方持駒 残り全部+ G3
※G:Grasshopper

■ 140-2 神無太郎氏作

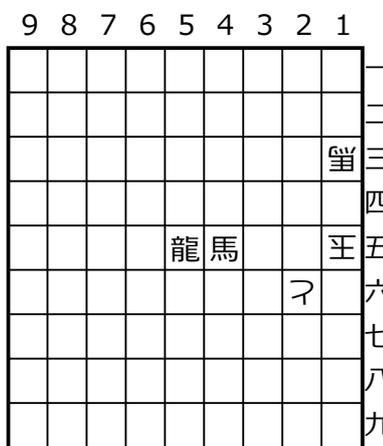
点鏡協力自玉スタイルメイト 8手



攻方持駒 香G
受方持駒 残り全部+ G3
※G:Grasshopper

■ 140-3 占魚亭氏作

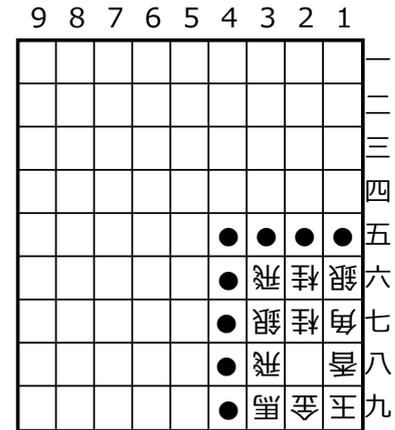
全Andernach協力詰 7手 (2解)



持駒 桂

■ 140-4 たくぼん氏作

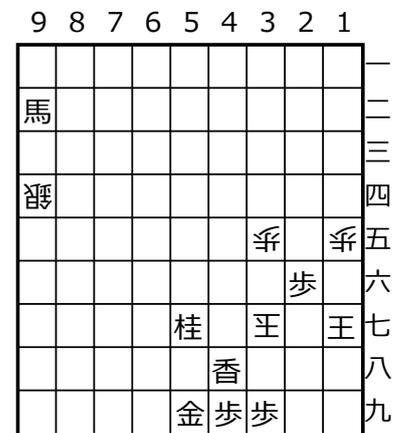
連続協力詰 20+1手



持駒 桂
※●:着手不可、不透過

■ 140-5 上田吉一氏作

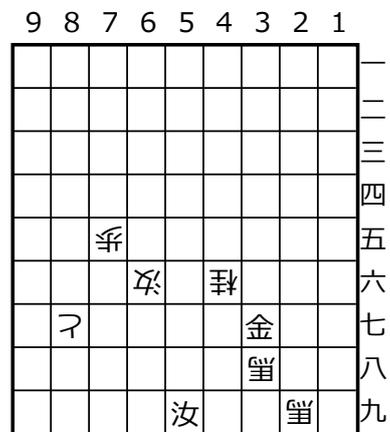
協力自玉詰 88手



攻方持駒 なし
受方持駒 なし
※銀:不滅銀

■ 140-6 springs 氏作

協力詰 7手



持駒 香
※汝:Siren王

今月の手筋

フェアリーに限らず、ある目標を達成するために手順を尽くすのは、詰将棋の醍醐味ですね。

これ以外にも、様々なタイプの仮定があると思います。自由な発想で「〇〇だったら」を想定し、仮定と実際の出題図で別の手順が正解となる作品をお寄せください。

ただし「〇〇だったら」の仮定の部分は、なるべく分かりやすくシンプルなものにしてください。

また、1題通常のコラボ詰（ばか詰）を募集します。こちらは必ずしもお題とは関係なくとも構いませんが、お題に合った作品を優先して採用したいと思います。

作品要件	「〇〇だったら1手詰」 （ある仮定の下では1手詰となるフェアリー作品）
募集締切	2022年4月17日（日）
募集作品数	4 + 1（協力詰枠）
送り先	神無七郎（k7ro.ts@gmail.com） 上記宛先へ E-mail でお送りください。
備考	1人何作でも投稿可。 メールの件名に「作品投稿」の語を入れてください。 採否は4月24日までに通知します。



（※解答は P74 に掲載）

本コーナーへの投稿を募ります。
「例図」及び「手筋の名称」「意味」「解答」（できればカードの他の項目も）記述して担当者までお送りください。
「手筋の名称」は既存のものがなければ、造語でも結構です。
また、例図は紹介する手筋以外の要素を極力排し、“教材”に徹してくださるようお願いいたします。

第1回最後の1ピース作品展（再掲）

担当：馬屋原 剛

○はじめに

このたび、「最後の1ピース」の更なる発展を願い、作品展を開催するに至りました。13名16作と、想像以上に作品が集まり感謝に堪えません。

バラエティー豊かな作品群で出題順に悩みましたが、馬屋原が易しいと感じた順に並べました。とはいえルールが様々なので得意なルールから取り組むのがいいと思います。1題からの解答も大歓迎です。

解答が多く集まり好評であれば、第2回以降も開催します。開催内容についてご意見があればぜひお聞かせください

○解答要綱

- ・追加駒と詰手順の両方を解答してください。
- ・ぜひコメントをお願いします。
- ・お気に入り投票を実施します。お気に入りの作品の番号を記入ください。何作でも可です。
- ・検討はしましたが、別解が見つかる可能性があります。別解を発見した場合は早めにご連絡いただくと助かります。
- ・ルールは後述しましたが、不明点があれば馬屋原まで連絡ください。
- ・解答締切：2022年3月31日（木）

○解答送付先

- ・メール：gou.umayabara@gmail.com
- ・TwitterのDM：[@umanoko1525](https://twitter.com/umanoko1525)

○基本ルール

- ・指定された枚数の駒を追加して、指定されたルール、手数で完全作にしてください。
- ・例えば3手詰と指定があった場合は、1手詰や5手詰にしてはいけません。
- ・特に記載がない場合、完全限定にしてください。最終手余詰もNGです。非限定（変同含む）や最終手余詰がある場合は別解扱いにはなりません。

○オプションルール

- ・攻方駒指定：攻方の駒を追加してください。持駒に追加も可です。
- ・盤面指定：盤面に追加してください。持駒は

不可です。

- ・レトロ解析利用：単玉でのレトロ解析の正式なルールはわからないのですが、本作品展では、王手放置しないかぎり現れない局面になるような駒追加は避けてください。

- ・筋指定：指定された筋に駒を追加してください。

- ・別種の駒指定：複数枚の追加駒をそれぞれ別種の駒にしてください。別種の定義は出題図を参照してください。

- ・生駒追加：生駒とは歩、香、桂、銀、金、角、飛、玉（王）のいずれかです。持駒に追加も可です。

ルール説明

【詰将棋】

攻方は受方がどのように応じて詰むように攻め、受方はなるべく詰まないように応じる。（いわゆる普通の詰将棋）

【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

【協力自玉詰】

先後協力して最短手数で攻方の玉を詰める。

【受先】

受方から指し始める。

【最悪詰】

攻方はなるべく相手玉が詰まないように王手し、受方はなるべく早く自玉が詰むように応じる。

【安南】

味方の駒が縦に並ぶと、上の駒の利きは下の駒の利きになる。

【ライフル】

駒を取ったとき、取った駒が元の位置に戻る。（詳細はWFP159号WFP作品展参照）

【Imitator】（■またはI）

着手をしたとき、その着手と同じベクトルだけ動く駒。このImitatorが駒を飛び越えたり、駒のある地点に着手したり、盤の外に出たりするような着手は禁止。これは王手の判定にも適用される。

【解答の注意点】

⑧成駒と生駒は別種。玉と王は同種として解答してください。

⑬解は2つありますのでご注意ください。

⑭出題図をa)持駒：銀香として、次に持駒：香としたものをb)として解答ください。

①竹内亮太

最後の1ピース 詰将棋1手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						と	王		一
							龍		二
						香	飛	香	三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

※1枚追加

②上谷直希

最後の1ピース 詰将棋1手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
						玉	飛	角	五
							桂	王	六
									七
									八
						龍	角		九

持駒 なし

※1枚追加

③宮田敦史

最後の1ピース 詰将棋1手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						龍		王	一
						龍			二
						香			三
						龍			四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

※攻方の駒を盤上に2枚追加

④宮田敦史

最後の1ピース 詰将棋1手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						龍		王	一
						龍			二
									三
				香		王			四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

※攻方の駒を2枚追加

⑤kisy

最後の1ピース 受先協力詰2手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
					角				五
									六
									七
						王			八
									九

持駒 なし

※1枚追加・レトロ解析利用

⑥柳原裕司

最後の1ピース 詰将棋5手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				龍			王		一
				龍		王	龍		二
				香		王			三
				香					四
				歩	龍				五
									六
									七
									八
									九

持駒 金

※1枚追加

⑦藤原俊雅

最後の1ピース 詰将棋5手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
			ス						五
			角						六
		飛							七
王	角								八
	ス	歩							九

持駒 なし

※1枚追加

⑧青木裕一

最後の1ピース 最悪詰1手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

※1筋にそれぞれ別種の駒を3枚追加
(成駒と生駒は別種、王と玉は同種とする)

⑨上谷直希

最後の1ピース 協力詰5手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							と		一
									二
							驥	王	三
			角						四
							銀		五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

※1枚追加

⑩神在月生 (別解あり、追記 P16 参照)

最後の1ピース 協力詰5手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							王		一
			歩	歩					二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 飛

※1枚追加

⑪たくぼん

最後の1ピース 安南協力詰5手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
							王		二
							玉		三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

※2枚追加

⑫駒井めい

最後の1ピース 安南協力詰5手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							玉	科	一
									二
							王		三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

※生駒1枚追加

第138回WFP作品展の結果を報告します。

今回の出題は全12題（ツインを含むため実質14題）。解答者数6名。全題正解者1名。解答の内訳は以下の通りです。

〔第138回WFP作品展成績〕（敬称略）

○:正解 ×:誤解 -:無解

解答者名	1	2	3	4	5	6	7 _a	7 _b	8 _a	8 _b	9	10	11	12	計	
たくぼん	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	14
占魚亭	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	12	
変寝夢	○	○	○	-	-	-	○	○	○	○	○	-	○	○	10	
一乗谷酔象	○	○	-	-	-	-	○	○	○	○	-	-	○	○	8	
はなさかしろう	○	○	○	-	-	-	○	○	○	○	-	-	○	-	8	
和田裕之	○	○	-	-	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	4	

今回は**138-4**及び**138-10**で、解答者ゼロ（あるいは実質解答者ゼロ）が危惧されたのですが、たくぼん氏が正解し、事態を回避することができました。今回の殊勲賞です。**138-5**と**138-6**も正解者が出るかどうか心配していましたが、こちらは占魚亭氏とたくぼん氏のお二人が正解。さすがの解図力です。作品の方は易しい問題や難しい問題、短編から長編までバラエティに富んでおり、バランスの良い回になっていると思います。解図されなかった方もこの結果稿でご鑑賞を。

■ 138-1 小林看空氏作（正解6名）

ライフル協力詰 7手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
			桂	桂	桂				五
									六
				王					七
									八
									九

持駒 香

【ルール】

• 協力詰

先後協力して最短手数で受方玉を詰める。

• ライフル

駒を取ったとき、取った駒が元の位置に戻る。

(補足)

Rifle Chess の翻案。

本来は「居ながらにして利き先の駒を取れる」であるが、「取った後で元の位置に戻る」とも解釈できる。ここでは成・不成の選択ができ

るよう後者の解釈を採り、以下の細則に従うものとする

- 1)駒取り時、駒が戻るまでを一手とみなす。駒を取った瞬間だけ「自玉への王手」となったり、「行き所のない駒」になったりしても構わない。
- 2)生駒による駒取りで「現位置」「駒取り地点」のいずれかが可成地域にある場合、成・不成を選択できる。

【解答】

59 香 58 金 同香/59 香 47 玉 58 金 56 玉
57 金 まで 7手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
			桂	桂	桂				五
				王					六
				金					七
									八
				香					九

持駒 なし

【解説】

今回のライフル協力詰 3 題は、ライフルの基本手筋の復習問題です。

本局の主題は「居食い」。居食いは都合が良い場合も悪い場合もあり、その両方が一局で見られます。

居食いの長所が見られるのが 3 手目。金を取った香が元の位置に戻ってくれるので、5 手目 58 金が可能になります。

逆に詰上りは居食いの短所が現れます。57 地点は 2 枚の桂が守っていますが、どちらで取っても香の利きが玉に貫通します。居食いのせいで、守備駒が守備に働いていないわけですね。

ライフルでは居食いは自動的。中将棋の獅子等とは違い、居食いを避ける選択はできません。本局は左右対称の綺麗な初形でライフルの居食いについて学ぶことのできる作品です。

【短評】

変寝夢さん

最終形が見えたので解きやすかった。
57 はもし玉方の駒が 10 枚効いていたところで、全く意味はないのですね。

☆フェアリー駒を使わない場合、一箇所にかせられる駒数の上限は（玉を除いて）8 枚でしょうか。「役に立たない守備駒たち」に焦点を当てた作も面白そうですね。

占魚亭さん

双方 58 金と着手。

和田裕之さん

居食いすると後ろから抜かれる形。

たくぼんさん

下段でも出来そうかと思ったが成れるので銀合がありましたね。

はなさかしろうさん

ライフルのルールを見てまず思い浮かぶ詰み形なので、合っていると良いのですが。

一乗谷酔象さん

大駒の合駒から考えて苦戦。
まだ、詰形に慣れてませんね。

■ 138-2 小林看空氏作（正解 6 名）

ライフル協力詰 7 手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

香									一
	王	歩							二
	銀	銀	銀						三
									四
飛									五
									六
									七
									八
									九

持駒 銀

【解答】

92 飛生 81 玉 71 歩成 同玉/81 玉
82 銀 72 玉 71 銀成 まで 7 手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

香	全								一
飛	王								二
	銀	銀	銀						三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

【解説】

本局で見られるライフルの手筋は「2 手原形消去」と「紐付きでない近接王手を含む両王手」。どちらも居食いの応用手筋です。

初手は逃げ道を残すための不成。協力詰では当然の一手ですが、味の良い導入ですね。

ここで 72 歩が邪魔駒になっているので、次の 2 手でこれを消去します。ライフルでは居食いを利用することで通常なら 4 手掛かる原形消去を 2 手で行えるのです。

72 歩が邪魔駒である理由にも居食い絡んでいます。歩があると居食いで 81 に戻されるので、72 玉とできないわけですね。

最終手は 71 銀成の両王手。71 全には紐が付

いていませんが、居食いで 72 に戻るの取
ることはできません。

なお、63・73・83 の銀はすべて歩に変えても
大丈夫です。玉の周囲に攻守の銀 4 枚が終結す
る形の美しさを重視したのか、単なる創作過程
の名残りなのかは作者本人に聞くしかないでし
ょうね。

【短評】

変寝夢さん

詰上がりで 72 歩は必要と思ったら、あっさ
り捨てちゃった。

占魚亭さん

手の流れが軽快。
綺麗に両王手が決まって爽快。

和田裕之さん

両王手。

たくぼんさん

ちょっと変わった両王手。勉強になります。

はなさかしろうさん

一方が近接の両王手はライフルと相性が良
さそう。

一乗谷酔象さん

駒を取らない攻めが手筋でしょうか。
最終手が心地よい。

■ 138-3 小林看空氏作（正解 4 名）

ライフル協力詰 9手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

								香	王	一
										二
										三
					龍				毎	四
							飛			五
										六
										七
										八
										九

持駒 香

【解答】

13 香 12 桂 同香生/13 香 12 桂 23 桂 22 玉
12 香成/13 杏 32 玉 24 桂 まで 9 手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

								香		一
								王		二
								桂	杏	三
						龍		桂	毎	四
								飛		五
										六
										七
										八
										九

持駒 なし

【解説】

本局で登場するライフルの手筋は「居成」と
「居不成」。それも 1 枚の香による同一地点での
居成と居不成です。

盤上には攻方の飛と龍がありますが、意外と
使えません。21 飛成や 14 龍は居食いにより王
手になりません。駒を取らない 22 飛成は王手
になりますが、応手も駒取りしかないので、た
だの原形消去になります。25 飛はない方が良い
駒ですが、これを消そうとすると手数が足りな
くなるのです。

盤上の駒を使う手がだめなので、持駒の香で
合駒を稼ぎますが、ここで一番役に立つ合駒が
桂であるというのが、ライフルらしいところ。
最初の桂合は飛筋を止めて 22 玉を可能にする
のが目的の桂合で、2 回目の桂合はとどめを刺
すための桂合です。ライフルでは近接王手だと
居食いで逃げてしまうので、玉で直接取るこ
のできない桂は貴重なのです。

対する攻方は 1 回目の桂合を香不成で、2 回
目の桂合を香成で取ります。1 回目の居不成は
逃げ道を確保するため、2 回目の居成が逃げ道
を塞ぐためという分かり易い意味付けです。主
役は桂、その相棒が香、飛と龍はそれを助ける
脇役という役割分担ですね。

作者のライフル作品群も残り 1 作 (139-1)。
今回学習した手筋も頭に入れて、解図に挑戦し
てください。

【短評】

変寝夢さん

12 桂の取り方がポイント。
やはりライフはキルケだな、と思った。

占魚亭さん

同地点での生・成の使い分けがいいですね。

たくぼんさん

同じ個所に生と成ですね。

はなさかしろうさん

生と成で。
最終手は桂でないと詰まないですね。

■ 138-4 占魚亭氏作 (正解 2 名) ※実質 1 名!

協力自玉スタイルメイト 4 手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									王	一
										二
										三
										四
				王						五
										六
										七
										八
■										九

持駒 n 飛
※ ■ : Imitator
玉以外はすべて中立駒

【ルール】

- 協力自玉スタイルメイト
先後協力して最短手数で攻方をスタイルメイト (王手は掛かっているが合法手のない状態) にする。
 - 中立駒 (「**𠄎**」あるいは「n 駒」)
どちらの手番でも動かせる駒。
(補足)
横向きの字か横に n を付加して表記。
取り方や動かし方は以下の細則に従う
- 1) 中立駒の動きは現手番の駒としての動きとなる (利きが非対称な駒の場合に要注意)
 - 2) 中立駒は現手番の駒として成れる場合のみ、成ることができる
 - 3) 中立駒はどちらの手番でも取ることができ、持駒になる。この時、所属は取った側の持駒だが中立性は失わず、再び盤に戻ったときには中立駒として振舞う。

- 4) 中立駒は現手番側の駒を取れない。相手側の駒や、中立駒は取れる。
- 5) 中立歩による打歩詰は禁止。二歩禁も適用される。**手番を問わず**、中立駒の歩や通常の歩がある筋に、更に中立駒の歩を打つことはできない。
- 6) 中立駒は行き所ない駒にならない。
- 7) 中立駒でも**自玉への王手は反則**。自玉への王手となっているかどうかの判定は、現手番が終了し、相手側が着手する前に行う。
→参照：WFP61 号「中立駒の紹介」

• Imitator (■ または I)

着手をしたとき、その着手と同じベクトルだけ動く駒。この Imitator が駒を飛び越えたり、駒のある地点に着手したり、盤の外に出たりするような着手は禁止。これは王手の判定にも適用される。

(補足)

- 駒を打ったときは動かない。
- Imitator は元の駒と同時に動く

→参照：WFP75 号「Imitator の紹介」

【解答】

57n 飛 47n 飛成 [189] 56n 龍 [198] 同玉 [199]
まで 4 手

(最終形)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									王	一
										二
										三
										四
										五
				王						六
										七
										八
■										九

持駒 なし

【作者のコメント】

年始から Imitator の重いものは何なので、超軽いものをどうぞ。
Imitator が 98 にあれば、を実現させる易作です。

【解説】

Imitator が盤隅に居るおかげで、逆の盤隅にいる攻方玉は既に動けません。問題は持駒の中立飛の処分方法です。

Imitator はなるべく動かしたくないのですが、そうはいかないので、代わりに元の位置に戻るような手段を探しましょう。「XXn 飛 同玉」となったとき、Imitator が 99 に戻る手順を探すわけです。

もし飛が中立飛ではなく、普通の飛なら次のように 6 手掛かります。

57 飛 45 玉[189] 55 飛[187] 46 玉[188]

56 飛[189] 同玉[199] まで 6 手

2 手短縮するために、中立駒ならではの性質を利用します。それは「中立駒は相手の手番でも動かせる」という性質だけではありません。

「手番側から見て可成地域にあればその手番で成ることもできる」という性質の利用が不可欠です。そう、飛を成って龍にすれば 2 手短い手順で目的を達成できるのです。

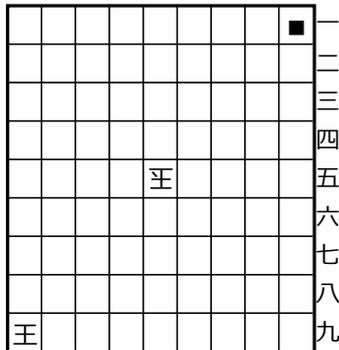
初手から「57n 飛 47n 飛成[189] 56n 龍[198]」と三角型に中立飛を動かし、Imitator を 98 に移動させる手順はベクトルの足し算そのもの。中立飛の動きを矢印で表すと「→+↗=↑」です。

2 手短縮を普通の飛で実現しようとするれば、下図のように 55 を中心に反転し、Imitator を斜めに動かす必要がありますが、飛だけが連続で動いて Imitator の位置を調整する本局に比べ味が落ちます。中立駒は、相手の手番が利用できるだけでなく、細かい操作にも向いていることが分かります。

【参考図】

協力自玉スタイルメイト 4 手

9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 飛

■: Imitator

53 飛 65 玉[121] 54 飛成[122] 同玉[111]

まで 4 手

【短評】

変寝夢さん (※無解)

持駒の消し方が巧い。

派手さはないが、読みが入ってる。

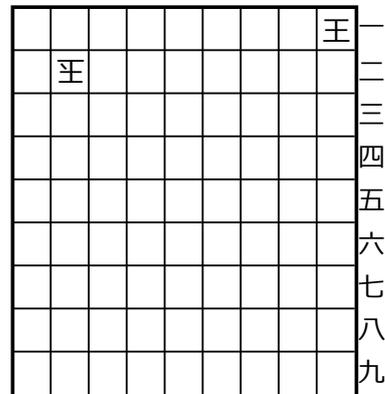
たくぼんさん

■が 3 角形の軌跡で元に戻ればと考えれば解けました。シンプルで難易度も最適。

■ 138-5 神無太郎氏作 (正解 2 名)

点鏡協力自玉スタイルメイト 6 手

9 8 7 6 5 4 3 2 1



攻方持駒 歩G

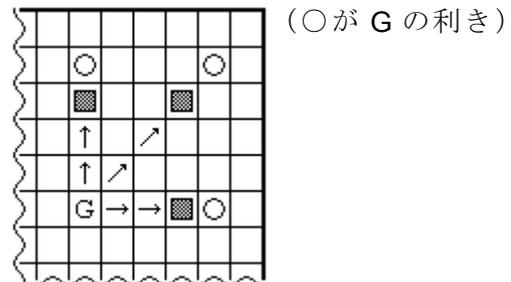
受方持駒 残り全部+ G3

※G:Grasshopper

【ルール】

•Grasshopper (G)

フェアリーチェスの駒。クィーンの線上で、ある駒を 1 つ飛び越したその直後の地点に着地する。そこに敵の駒があれば取れる。



(補足)

- 飛び越える駒は敵味方どちらでもよい。
- パオと違って飛び越さないと動けない。動ける場所も飛び越えた駒の隣だけ。
- 成ることはできない。

・2つ以上の駒は飛び越せない。

•点鏡

55 に関して点対称な位置にある2つの駒は、敵味方関係なく互いにその性能が入れ替わる。

(補足)

・行き所のない駒の禁則は適用されない

→初出：第108回WFP作品展(WFP127号)

【解答】

83歩 27G 88G 22香 81歩生 99香生
まで6手

(最終形)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

	歩							王	一
	王								二
									三
									四
									五
									六
							香		七
	G								八
皇									九

持駒 なし

【解説】

点鏡と Grasshopper (G) を組み合わせたシリーズ物の一作。本局では攻方の歩と受方の香が共にGの性能になり、相手陣最奥に“不成”で跳躍します。

「行き所のない駒」の禁則が適用されない点鏡の特徴を利用した、この縦と斜めの大跳躍が本局のクライマックスですが、その前の4手もなかなかの手順で、急転直下の収束に向けた良いお膳立てとなっています。

改めて各駒の役割を確認しましょう。

開き王手で81に跳んだ歩は自身を動けなくすると同時に、88Gの跳び先を埋めています。例えば2手目が27桂で5手目が91歩生だと、88Gの跳躍先を埋められません。従って2手目27Gが限定となるわけです。

88Gと利きを交換する4手目22香は、5手目の開き王手を可能にするための限定打。22香の代わりに22飛としては、最後に11王が飛の性能になるためステイルメイトになりません。

もちろん最終手99香生の代わりに92香では11王が元の利きのままになり、ステイルメイトになりません。

点鏡の目まぐるしい性能変化と、盤面の状況により利きが変化するGの相互作用で、一手先すら読むのが大変ですが、そこから生まれる手順は華麗そのもの。本局や次局は自力で解図できればそれに越したことはありませんが、楽器を弾けない人でも音楽鑑賞ができるように、手順を鑑賞するだけでも良い作品だと思います。

【短評】

変寝夢さん(※無解)

81歩生かあ。棋譜だけ見ても意味がわからないだろうなあ。

占魚亭さん

収束2手の連続生が強烈。

たくぼんさん

初手の歩打は絶対手なんだけど・・・と首を傾げたがラスト2手で納得。81歩生、99香生というインパクト十分の手順でした。

■ 138-6 神無太郎氏作(正解2名)

点鏡協力白玉ステイルメイト6手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
								王	二
									三
									四
									五
									六
									七
								王	八
									九

攻方持駒 飛G

受方持駒 残り全部+G3

※G:Grasshopper

【解答】

78飛 38G 32G 88G 18飛 92G
まで6手

(最終形)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
㊦						G	王		二
									三
									四
									五
									六
									七
							王	飛	八
㊦									九

持駒 なし

【解説】

盤の隅ではなく空中に浮いた自玉。これをどうするかも問題ですが、それ以上に問題なのが持駒飛の処置。単に対称位置に駒を打つだけで動きを止められるように思えません。そのために使う手段がGによる「ピン止め」です。

これを可能にするのが、92Gの八面六臂の働きです。

最終手92Gは18飛と利きを交換する応手。これで22王(88Gと利きを交換している)が、42や99に跳ぶ手を防いでいます。更に32Gをピン止めし、12Gと跳ぶ手を防いでいます。18飛はGの利きになっていますが、38飛とは跳べません。92Gが本来の利きに戻って王手になるからです。つまり、これもピン止めです。32Gは暫定的な(現在の)利きによってピン止めされており、18飛は潜在的な(本来の)利きによるピン止めされているわけです。たった一手の92Gにこれだけの意味が詰まっているのは驚きですね。

最終手以外の手順についても補足しておきます。初手は後にGが88に跳べるよう78限定。2手目G合は3手目32Gが王手になるよう38に限定されます。

前局同様、本局も一手ごとに状況が大きく変わる混沌の世界。フェアリーならではの「非日常」を満喫できる作品だと思います。

【短評】

変寝夢さん(※無解)

最終手の後、99玉と12Gが逃れていないか確認してしまった。

占魚亭さん

中途半端な地点に打つ初手がポイント。

たくぼんさん

最終局面の場面をしばらく眺めていてステイルメイトになっていることに気付くまでしばらくかかりました。42地点も99地点も抑えている92G(飛)の働きが抜群ですね。

■ 138-7 藤原俊雅氏作(正解5名)

a) 協力自玉詰 8手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
				王	糸	龍			四
				糸					五
				馬					六
				王					七
									八
									九

持駒 飛角

b) 協力自玉詰 8手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
				王	糸	龍			四
									五
				馬					六
				王					七
				桂					八
									九

持駒 飛角

【ルール】

• 協力自玉詰

先後協力して最短手数で攻方の玉を詰める。

【解答】

a) 45 龍 同玉 89 角 78 飛 67 馬 56 桂
48 飛 同飛成 まで 8 手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

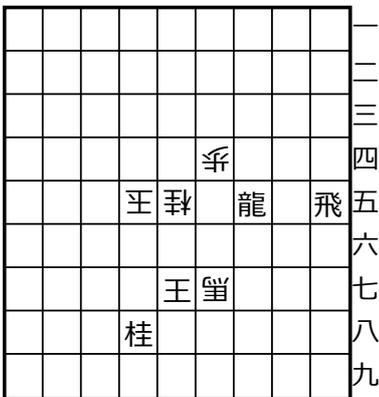


持駒 なし

b)65 馬 同玉 15 飛 25 角 35 龍 55 桂
47 角 同角成 まで 8 手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 なし

【作者のコメント】

大駒捨て+最遠打+限定合+限定合+大駒捨てのツイン。初手の意味付けは玉方の駒台に大駒が無いので渡すというものだが、a)で 43 龍・b)で 44 馬として大駒を渡さずに作意順に合流できるテーマ的な紛れを付けた。3 手目からの手順は線駒+合駒のライン上にさらに線駒+合駒を挟むというもので、前例としては伝統ルールの原亜津夫作(詰パラ 1988 年 10 月号)が挙げられる。本作はそれをダブルで実現したところに意味があると思う。

盤上 6 枚から対照的な 2 手順を演出できて満足。唯一心残りなのはツイン設定だが、余詰の関係でこれ以上はどうしようもなかった。

【解説】

本局と次局には共通した主題があります。合駒を束縛から解放する「アンピン」(ピン外し)です。

協力自玉詰で盤上に詰みに役立つ駒がない場合、合駒を発生させて詰める必要があります。その際、例外的な場合を除き、発生させた合駒を動かして詰めねばなりません。合駒を動かす方法は、玉か王手駒を動かして利きの線上から逸らすのが一般的です。もちろん、これにも例外がいくつかあり、本局で使われている手筋はその例外の一つです。

具体的には同じ線上で王手駒と合駒の組を 2 つ作って、最初の合駒を自由に動けるようにするというものです。

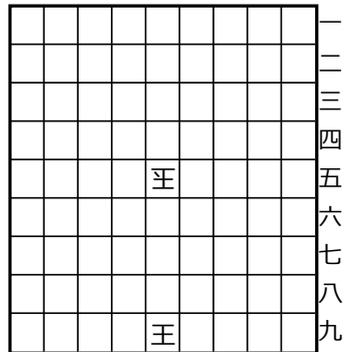
この手筋が初めて登場したのは約 40 年前。のすたる爺氏の作品でした。

【参考図 1】

のすたる爺 作

ばか自殺詰 6 手

9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 飛角2

(詰将棋パラダイス,1982年3月)

19 角 28 飛 37 角 46 桂 58 飛 同飛成
まで 6 手

9×9の将棋盤にピッタリ収まる、まるで詠えたような作品ですね。初出でこんな完成品を発表されると、後に続く作家は結構困ります。とはいえ、これで諦めたら創作はできません。作家は知恵と工夫で、新たな作品を生み出さねばならないのです。

本局ではこの手筋に2つの工夫を加えています。それは「要となる駒を捨てて相手に渡す」とことと、それを「横と斜めで表現する」という2つです。a)では龍を捨てて飛合、b)では馬を捨てて角合。最後はその合駒を成って詰めるので、最初と最後が(成生も含めて)まったく同じ駒となっています。最初に捨てた駒で詰ます

ことにより、手順に物語性が生まれていますね。世が世なら因果応報の説話に使われてもおかしくありません。

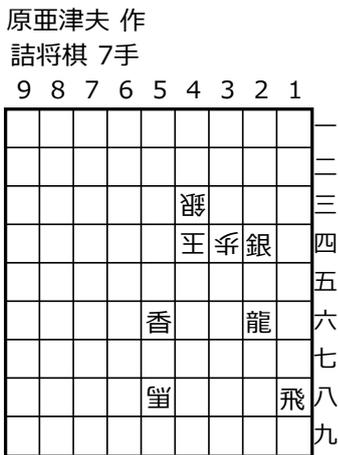
この捨駒を強調するために、駒を捨てずに捨駒と同じ位置に玉が移動できる紛れが用意されているのも芸が細かいところ。協力系ルールで捨駒を入れると余詰防止に苦勞するのですが、最小限の使用駒で余詰を防いでいることにも感心させられます。

良い機会ですので、この手筋の応用を2つ紹介します。

本作品展では **WFP103-sp** (神無太郎氏作、成禁協力自玉詰 10 手、WFP121 号) でこの応用手筋が使われています。この作品の主眼は「利きが分からないのに詰手順だけは分かる」という不思議な現象ですが、手順も工夫されていて、王手駒・合駒の組を2つ作った後、合駒を2つとも動かしています。基本手筋では合駒が1枚だけ動くので、その点が拡張されているわけです。WFP123 号の結果稿では(筆者が力尽きたせいで)詳しく解説していませんが、「どうやって2枚目の合駒を動かすのか」「なぜ2枚目の合駒を動かすのか」について考えてみてください。

また作者のコメントにあるように、普通詰将棋にも同様の構造を持った作品が存在します。

〔参考図2〕



持駒 桂
(詰将棋パラダイス,1988年10月)

48 飛 47 銀 46 龍 45 金 36 桂 同銀
55 龍 まで 7 手

この作品で、最初の合駒の意味は「利きの確保」であり、合駒を動かす意味付けは「攻方駒の利きの有効化」です。協力系ルールではない

のに、意味を変えることで同じ構造の手順を成立させられるのは驚きですね。

ここで紹介した例は「手筋の拡張」と「別ルールでの実現」の2つですが、一般に、ある手筋が存在すれば、その手筋の拡張や応用は必ず存在します。皆さんも知恵と工夫で既存手筋に新たな価値を加えてください。

【短評】

変寝夢さん

作り方に興味がある。
とりあえず1つ作ってから後付けなのか。
言葉や単語からのインスパイアなのか。

占魚亭さん

綺麗な対照。手順・構成も完璧。

たくぼんさん

- a) こちらのの方が先に解けました。初手の捨駒がよく入ったものですね。
- b) 初手が歩頭でないのが残念だが、ab 合わせて抜群の味。

はなさかしろうさん

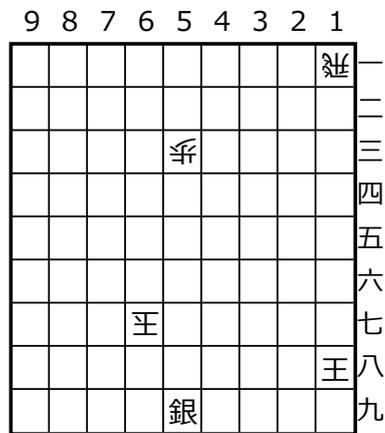
ピン外し、ピン外し…と唱えつつ。
138-8 と共に、駒種が角馬と飛龍の入れ替えで一致するようにできていて美しいです。

一乗谷酔象さん

龍飛と馬角の攻防入れ替わりを楽しめる作品。

■ 138-8 藤原俊雅氏作 (正解6名)

a) 協力詰 5手



持駒 飛角

b) 協力詰 5手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
馬								
			糸					
			王					
								王
			銀					

持駒 飛角

【解答】

a) 12角 66玉 16飛 57玉 56角成 まで 5手 (詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1
								逆
			糸					
			馬					飛
			王					
								王
			銀					

持駒 なし

b) 63飛 78玉 45角 79玉 68飛成 まで 5手 (詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1
馬								
			糸					
				角				
			龍					王
	王	銀						

持駒 なし

【作者のコメント】

攻方王に王手がかかっている初形から、そのラインに2枚割り込むことで1枚目を unpin して動かすという狙い。手順も論理も浅いのは気

になるが、ツイン啓蒙用ということで。

【解説】

合駒を束縛から解放するピン外しの攻方版。初形で攻方玉に王手が掛かっており、攻方の合駒から始まります。

攻方なので合駒は逆王手でなければなりません。a)b)共に飛角どちらでも逆王手が可能です。さて、どちらがどちらでしょうか？

答えは「成が可能な方を選ぶ」という指針から導かれます。a)では12角と17飛の2つの候補がありますが、成れるのは12角。b)では27飛・45角・63飛の3つの候補がありますが、成れるのは63飛。生の飛角では玉を詰めにくいので、成れる位置から逆王手をするわけです。

次は初手に打った合駒を解放せねばなりません。合駒を自由にする手段は前局と似ていて、合駒と玉（この場合は自玉）の間に駒を挟むという手段を使います。どの位置に駒を挟むかは少し自由度があるので、2手目の選択には迷うかもしれません。最後は狙い通り初手に打った駒を成って詰み。ピン外しの狙いを縦と斜めで分かりやすく表現した作品でした。

解答者の短評からも伺えますが、同じ構造の手順でもb)の方が解きにくくなっています。その原因は挟んだ駒の役割にあります。a)では飛が馬を支えています。b)では龍を角が支えておらず、逃げ道を塞いでいるだけです。直接的な役割を持つ駒は使い方も分かり易いのですが、補助的な役割の駒は着手の効果が分かりにくくなります。もし心理的な解きづらさを狙うなら、なるべく茫漠とした着手を含むよう手順を構成すると良いと思います。

【短評】

変寝夢さん

b) 2手目が好手。

最終形角の利きが盲点になった。

占魚亭さん

狙いが分かりやすく表現されていると思います。

和田裕之さん

二重に止めて最初の駒が成る。

たくぼんさん

- a) こちらは一目。
- b) こちらは少し悩む。aがあるのにね～

はなさかしろうさん

ピン外し…ということ、138-7は解けているでしょうか。

一乗谷酔象さん

受方飛角の配置の違いだけで攻方飛角アンピンを巧みに表現する。

■ 138-9 上田吉一氏作 (正解3名)

協力自玉スタイルメイト 76手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

と	と		と	と	馬				一
と	と			香					二
銀	銀				桂	と	香		三
と	と			王					四
					桂	金			五
					金				六
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
香						飛	香		八
角	桂	銀	金	飛	金	銀	桂		九

持駒 なし

【解答】

- 53 馬 同玉 43 桂成 同玉 34 金 同玉
- 35 金 同玉 36 歩 同玉 38 飛 27 玉
- 28 銀 18 玉 27 銀 29 玉 28 飛 同玉
- 38 金 17 玉 26 銀 同玉 37 金 同玉
- 39 飛 47 玉 49 飛 57 玉 58 金 同玉
- 59 飛 67 玉 78 銀 同玉 58 飛 89 玉
- 59 飛 98 玉 58 飛 97 玉 98 飛 87 玉
- 88 飛 77 玉 86 飛 同玉 85 と 同玉
- 95 と 同玉 84 銀生 同玉 94 銀成 同玉
- 93 と 同玉 83 と 同玉 82 と 同玉
- 81 と 同玉 71 と 同玉 61 と 同玉
- 51 香成 同玉 41 桂成 同玉 32 と 同玉
- 22 角成 同玉 12 香成 同玉 まで 76 手

(最終形)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
								王	二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

【解説】

準攻方実戦初形無防備図式。目的は攻方の手をなくすこと。指定された手数は76手。駒を取らない手が一手でも入ると38枚の駒を全部消すことはできません。直接的な捨駒でも、間接的な捨駒でも構わないので、捨駒を連続させることが必要です。さあ、「捨駒の一筆書き」を完成させましょう！

作意手順を辿る前に、作家視点から準攻方実戦初形について考えましょう。

自玉は捨てられないので、玉の代わりに他の駒を置くか、空所にするのは仕方ないところ。本局では玉の代わりに飛が玉座に座っています。また、香が原位置だと捨駒の継続が難しくなるので、香が一段上に配置され、9筋では一段上がった香の下に角が潜っています。ただし、香が原位置のままでも全着手捨駒の実現は不可能ではありません。同様の条件に挑戦される方は、実戦初形との差分を少なくする方法についても考えてみてください。

手順は捨駒が途切れないようにすれば良いので易しいですが、いくつか考え所があります。

まずは初手。36から自陣へ侵入するルートで35桂が邪魔しているので、53馬から桂を消す迂回ルートを辿ります。

次の選択は7手目から「24と 同玉」を入れるかどうか。保留して手順を進めると、収束で23とを残す必要があることが判明します。

自陣に玉を誘い込んでから、17歩消去のため17手目28飛で飛を捨てるのが英断。59にもう一枚飛があるので、ここで飛を捨てても手の継続には困りませんが、少し勇気が要ります。その後順調に自陣の駒を消しますが、26手目

から 44 手目までの間に桂香歩はすべて飛の王手による間接消去で消されます。大活躍した飛自身も 45 手目 86 飛の限定開き王手による間接消去で消え去ります。角を原位置ではなく 99 に置いたのも、この手順を作者が気に入ったからでしょう。

ここから上辺の駒を片付ける収束に入りますが、51 手目 84 銀生と 94 銀成の選択で少し迷います。手順を進めると、63 手目 71 とのため 51 手目は 84 銀生だったことが分かります。

ここから難しいところはありません。唯一自陣に残った角を含め、すべての駒を捨て去り、気持ちの良い終局となります。

本局は難解ではありませんが、間接消去を多く用い、手順が単調にならないよう工夫されています。攻方実戦初形に拘らず、準・攻方実戦初形にしたのも、条件より手順の面白味を重視した結果だと思えます。

【短評】

変寝夢さん

左下に追いかけてから 88～86 飛が好手順。

占魚亭さん

収束のために 99 角を残しておくのがポイントだった。スラスラ手が進んでとても楽しかったです。

たくぼんさん

悩んだのは 15 手目 27 銀以下飛を捨てる所と 51 手目の 2 択。

上田さんの条件作は珍しいですね。

一乗谷酔象さん

右辺下の攻防にちょっと考えさせられる。



■ 138-10 上谷直希氏作『道行』（正解1名!）

協力白玉ステイルメイト 18手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
				王					三
				角					四
				王					五
				歩					六
									七
									八
									九

持駒 銀桂3香2

【解答】

43 角成 同玉 49 香 48 飛 47 香 46 飛

52 銀 同玉 44 桂 同飛 64 桂 同飛

42 香成 同飛生 43 香成 同飛 44 桂 同飛上
まで 18 手

(最終形)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
				王					二
									三
			銀		銀				四
				王					五
				歩					六
									七
									八
									九

持駒 なし

【作者のコメント】

普段はついつい作品内容についての話が長くなってしまうのですが、本作の場合は特に言うことはなさそうです。手順がすべて。

タイトルは北野恒富氏の作品より。生で見たとときの印象が強いです。組となって消えていく駒や三羽の鴉（桂）、（规则的に）死出の旅であることなどが合致しているかと考えております。縁起でもないタイトルですがルールが“自殺”系なのでご容赦いただければ。

【解説】

音楽の世界に「交響詩」という分野があります。創始者はフランツ・リスト。音楽そのものを聴かせる「絶対音楽」に比べ、情景等を描写する「標題音楽」が格下に見られていた時代に、敢えて文学的・絵画的な内容と結びつけた標題音楽を前面に押し出したのです。その後この分野は後期ロマン派から近代における一大潮流に成長し、多くの名曲が生まれました。

本局は絵画と強く結びついた「標題詰将棋」です。題名の付いた詰将棋はこれまで無数に生まれて来ましたが、題名と内容が深く結びついているという点で、単なる「命名のある詰将棋」ではなく「標題詰将棋」と呼ぶのが相応しいと思います。作者の言にあるように、この作品の『道行』は文学用語としての「道行」ではなく、北野恒富の「道行」を指しているのです。

ただし、本局を解図・鑑賞するのに、標題についての知識は必要ありません。これは交響詩の名曲が標題について知らなくても楽しめるのと同様です。標題はあくまで作者のインスピレーションを喚起するものであり、受け手は作品そのものを味わえば良いのです。

本局はまず「1」の字の初形が目を惹きます。しかし持駒が使いにくいいため、この形から自玉をステイルメイトにするのは難しく思えます。特に問題なのが持駒の桂3枚。これが全部銀なら「43 龍 75 玉」の形で簡単にステイルメイトを達成できます。せめて持駒が「銀 2 桂 2 香 2」なら、「44 飛 64 飛」の形のステイルメイトができるのに…と考えると悩んだ人も多いでしょう。一例は「43 角成 同玉 46 香 44 飛 52 銀 同玉 64 桂 同飛 54 香 53 飛 42 香成 同玉 43 銀 同飛 52 香成 同玉 44 桂 同飛上 まで 18 手」。3枚の桂のうち1枚でも前に利く駒なら同様の手順で目的を達成できますし、2つの飛を違う筋に合駒するのは自然な発想なので、上記手順と似た手順を追い求めて、泥沼にはまっても仕方ありません。

正解に到達するには発想の転換が必要です。2枚の飛を別の筋に発生させるのではなく、同じ筋に発生させるのです。縦に並べた後で横に並べ直す—これが本局を解く鍵だったのです。

並べ直しという手続きを経ることにより、使いにくい桂もすべて使うことができ、香の打ち場所、飛合の位置、香の成り場所、すべてが綺麗に限定されます。

左右対称な初形から左右対称の最終形。初形

では盤上に存在しない2枚の飛で、攻方玉を閉じ込める最終形。死出の旅路を表す不吉な標題を持つ作品ですが、妖しい美しさはこの作品と意外と合っているような気がします。

【短評】

変寝夢さん（※無解）

初形左右対称から全く非対称な手順が面白い。繋ぎの部分に不自然さがないのは、見事。

たくぼんさん

ステイルメイトにするには44飛64飛だろうという予想はすぐにできたのですが、縦に2枚飛合し持駒を使って64と44に持ってくる構想は全くの思考外でした。あとから考えると飛合を出す香の打ち場所を限定する為にはこうするのが自然と思いました。

☆たくぼん氏は本局でただ一人の正解者となりました。ある程度は解答陣も苦戦するだろうと予想していましたが、まさか正解者ゼロの寸前まで行くとは…… 138-4の解答と共に、今回はたくぼん氏が殊勲賞ですね。

■ 138-11 変寝夢氏作（正解5名）

レトロ協力詰 -22+1手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
王	将								二
						将	王		三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

攻方持駒 なし
受方持駒 歩

【ルール】

•レトロ -m+n 手

m 手逆算して n 手で詰む手順を求める。
(補足)

- 1)特に注釈のない場合、逆算も攻方王手義務があることを前提とする
- 2)協力系の場合逆算も双方が協力する。また、指定より短い手数逆算や短い手数の詰手順が成立する場合、それが優先され

る。

【解答】

93 玉(+92 と) 91 と 92 玉 81 と 91 玉 71 と
81 玉 61 と 71 玉 51 と 61 玉 41 と
51 玉 31 と 41 玉 21 と 31 玉 11 と
21 玉 12 と→歩 11 玉 13 歩/
12 歩成 まで -22+1 手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

								王	一
桂								と	二
						王			三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

攻方持駒 なし
受方持駒 なし

(逆算図)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

								王	一
桂									二
						王		歩	三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

攻方持駒 なし
受方持駒 なし

(出題図への手順)

12 歩生 21 玉 11 歩成 31 玉 21 と 41 玉
31 と 51 玉 41 と 61 玉 51 と 71 玉
61 と 81 玉 71 と 91 玉 81 と 92 玉
91 と 93 玉 92 と 同玉 まで 22 手

(詰手順) 12 歩成 まで 1 手

【作者のコメント】

趣向的な雰囲気を感じていただければ幸いです。興味ある方は、玉方の駒の意味づけを考えてみてください。

【解説】

長手数レトロ第一弾。

成れば詰むのに成らなかったのが元に戻ってやり直し、という一局です。

原理は単純ですが逆算で歩の不成が自然に入るの面白いところ。ずっと「と金」のままだと玉を 11 まで戻せません。出題図で受方持駒が金だと最後まで逆算できず、弱い歩の方が役に立つという皮肉な状況だったわけです。

歩は面白い駒で、この形式のレトロでは逆算の最後に歩を持駒にすることができません。できたとしたら 1 手詰の方が「打歩詰」になってしまいます。更に、本局と逆の構成「不成だったら 1 手詰なのに、成ったために出題図の局面になった」を歩で行うことはできません。これに関しては歩に限らず、飛や角でも生じる現象ですが、レトロでも歩ならではの手筋が色々と眠っていそうに思います。

本局の手順の大半は追い手順なので、詰上りさえ正しく想定すれば、解くのは難しくありませんが、作る方は手数が長いとその分注意が必要です。例えば 82 桂がないと経路が非限定になりますし、33 銀がないと 21 玉を「22 と」で詰める「早逆算」が生じます。

今のところレトロ協力詰を検討できるソフトは変寝夢氏の VM だけです。レトロを自力検討の際は入念にチェックを行ってください。

【短評】

占魚亭さん

クリックミスで不成になってしまったのか！（ネット将棋あるある）

☆ネット将棋ではないですが、将棋ソフトでの成生選択ミスは筆者もよくやります。

たくぼんさん

全く悩むところは無かったけど長手数限定はすごいと思った。

はなさかしろうさん

こちらは簡単で良かったのですが、138-12 が解けません。無念…。

一乗谷酔象さん

ほぼ一本道でやさしい。



■ 138-12 変寝夢氏作 (正解 3 名)

レトロ協力白玉詰 -30+2手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

								王	一
								糸	二
							王		三
							王		四
									五
									六
									七
									八
歩									九

攻方持駒 なし
受方持駒 銀

【解答】

31 桂(+23 全) 33 全 34 玉 44 全→銀 43 玉 55 銀
54 玉 66 銀 65 玉 77 銀 76 玉 88 銀
87 玉 77 銀 98 玉 99 歩持 88 玉 66 銀
77 玉 55 銀 66 玉 44 銀 55 玉 33 銀
44 玉 22 銀 33 玉 23 銀(+22 と) 32 玉 23 銀持/
21 銀 同と まで -30+2 手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

								王	一
								糸	二
							王		三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

攻方持駒 なし
受方持駒 銀

(逆算図)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

								王	一
								糸	二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

攻方持駒 銀
受方持駒 なし

(出題図への手順)

23 銀 33 玉 22 銀生 44 玉 33 銀生 55 玉
44 銀生 66 玉 55 銀 77 玉 66 銀 88 玉
77 銀 98 玉 99 歩 87 玉 88 銀 76 玉
77 銀 65 玉 66 銀 54 玉 55 銀 43 玉
44 銀 34 玉 33 銀成 24 玉 23 全 同桂
まで 30 手

(詰手順) 21 銀 同と まで 2 手

【作者のコメント】

銀の往復が狙い。

2 3 桂を省き 4 4 銀 3 2 玉辺りから始める手もあるが、最後銀は消えるので最初は盤上にいないようにしました。

レトロの趣向作は協力白玉の方が作りやすいような気がします。

【解説】

長手数レトロ第二弾。今度は逆算で 2 手の協力白玉詰を作れという設問です。

出題図を眺めると、ポツンと離れた 99 歩が気になりますね。受方の 12 歩、23 桂はどちらも白玉を詰める役に立ちません。99 歩を受方の「と金」に変えて白玉を詰めて貰うしかなさそうです。この歩に働きかけるには、受方の玉を 99 歩に接近させる必要がありますが、そのために使えるのは受方の駒台にある銀だけです。

以上の考察から「本当は銀をと金に取らせて白玉を詰めないといけないのに、銀でと金を取ってしまい、それを 99 に置いて戻ってきた」という大まかな筋書きが見えます。

後は具体的に逆算手順を探す作業になりますが、ここでちょっとした心理的陥穽が待って

います。

99 歩を置くために逆算は銀で玉を追う手順が主体となります。その流れで逆算手順の冒頭（逆算図から出題図への順方向だと手順の最後の方）で銀を取ったのも玉だと思い込んでしまいがちです。この場合、23 桂は最初から最後までその位置にいたこととなりますが、それでは手数が足りません。

もう一つ、陥りがちな錯覚は銀が最初から最後まで生駒だったとの思い込みです。99 歩を置くためには、玉を斜めに追うことになるので、銀は生駒のままの方が、都合が良いのですが、ずっとそうだと決めつけてはいけません。実際、逆算の冒頭では、銀が成り、それを桂で取らせるのが正解です。

本局は銀追いによる斜め一往復で、作意だけ見れば易いように思えますが、銀を成銀に変え、桂に取らせるというアクセントのおかげで、見た目より手応えのある作品になっていると思います。

【短評】

たくぼんさん

最後 24 銀、同玉ばかり考えていて 4 手オーバーで悩んだ。桂跳ねがありましたね。

一乗谷酔象さん

銀成／成銀の手が入って引き締まった。

【総評等】

変寝夢さん

難易度がはっきりわかれた感じでしたね。

4 番の正解数がどうなったのか、興味があります。

☆今回は解答期間に 2 月が挟まるため、少し心配なところはありました。ただ 138-4 は正直もう少し正解が集まると予想していたので、作者以外の正解者がたくぼん氏のみというのは意外でした。Imitator と中立駒を見ただけで解図を諦めた人が多かったのかもしれない。

和田裕之さん

前回は 1 月号のフェアリーランドが早く終わったので色々取り組みましたが今回はこれだけで。

☆昨年度 WFP 作品展の解答成績をまとめた資料を以下に示します。(既に Onsite Fairy Mate の「WFP 作品展鑑賞室」に収録しているのと同じものです。)

今年も解答王の座に輝いたのはたくぼん氏。5 年連続の首位獲得です。解答、創作、担当業務、会合の主催、本誌の発行等、正に八面六臂の活躍ですね。これからもよろしく願います。

2021 年 WFP 作品展解答成績

氏名	128回	129回	130回	131回	132回	133回	134回	135回	136回	137回	計
たくぼん	12	13	12	13	11	13	13	12	12	12	123
占魚亭	12	6	10	10	9	13	16	8	12	11	107
一乗谷酔象	7	10	6	4	7	7	12	9	9	10	81
変寝夢	7	12	6	6	8	7	11	6	7	6	76
はなさかしろう	8	11	10	6	5	2	13		2	2	59
真T	11	11	10	10							42
springs							9	4	5		18
ティエムガンバ							7			10	17
青木裕一		9									9
菊田裕司					5						5
和田裕之										5	5
神在月生		3									3
kz						3					3
計	57	75	54	49	45	45	81	39	47	56	548

推理将棋第148回出題

担当 Pontamon

将棋についての話をヒントに将棋の指し手を復元するパズル、推理将棋の第148回出題です。はじめての方は「どんな将棋だったの? - 推理将棋入門」をごらんください。

解答、感想はメールで2022年4月10日までにTETSUまで

(omochabako@nifty.com) メールの題名は「推理将棋第148回解答」をお願いします。解答者全員の中から抽選で1名に賞品リストからどれでも一つご希望のものをプレゼント! 1題でも解けたらぜひご解答ください。

第147回は最終手が金の特集でしたが、今回は駒の成・不成がテーマです。

初級は飛成までの担当からの9手、中級は駒成なしのNAO作の10手、上級は強制成ルールのミニベロ作の11手です。

今回は初級が最難問だったとのことでした。今回の難易度設定は手数順で合っていると思いますが、解けそうな問題から取り組んでみてください。

■本出題

148-1 初級 Pontamon 作
2段目飛成の初王手 9手

1段目への飛成で詰む形はすぐに思い浮かびます。2段目での飛成の形は?

148-2 中級 NAO 作
高飛車くん(その8) 10手

高飛車くんシリーズの8作目は10手です。王手は何回でしょうか。

148-3 ミニベロ作
強制成り 11手

強制成のルールがある駒種は3種。ルール違反の不成でも詰む形とは?

■中間ヒント (3月27日頃 作者)

■締め切り前ヒント (4月3日頃 Pontamon)

148-1 初級 Pontamon 作
2段目飛成の初王手 9手

「9手目の初王手で詰めたよ」
「どんな将棋だった?」
「初の駒成の2段目への飛成で詰んだんだよ」
さて、どんな手順だったのでしょうか。

(条件)

- ・9手目の初王手で詰み
- ・最終手の2段目への飛成が初の駒成

148-2 中級 NAO 作
高飛車くん(その8) 10手

「見たかい。俺の5段飛車」
「いつもの作戦だね。成る手はなくて10手で詰みか。同の付く王手が2回あったね」
さて、どんな手順だったのでしょうか。

(条件)

- ・10手で詰んだ
- ・5段目への飛の手があった
- ・同の付く王手が2回あった
- ・成る手はなかった

148-3 ミニベロ作
強制成り 11手

「昨日ネット将棋やって、11手で詰ましてやったよ。4手目の歩を見て、余り強くないと思ったね」

「ものすごく強い人もいるんだけどね」
「途中まで成る手がなかったので、11手目も不成で詰まそうとしたのに、勝手に駒が成っちゃったんだ」

「パソコンだと、反則手は自動的に修正されるんだよ。おかげで、二歩などの反則手もなくなったよ」

「でも、駒を打とうとして、変なところに落っことしてボロ負けしたこともあるな」
さて、この11手目の強制成りで勝った将棋は、どんな手順だったのでしょうか。

(条件)

- ・11手詰
- ・11手目は唯一の成る手で、強制成りだけど成らなくても詰んでいた
- ・4手目は歩

推理将棋第146回解答

担当 Pontamon

2022年の年賀推理特集は9作の盛況な回で、15名の方々から解答をいただき、ありがとうございました。

しかし、年頭から余詰を2作出してしまい、粗検、大変申し訳ありませんでした。

146-1 初級 NAO 作
令和4年の決め手 7手

「あけましておめでとう。指し初めの一局はどうだった？」
「7手目に4筋の手を指して詰ませて勝ったよ」
「令和4年の元旦にぴったりだね。今年もよろしく」
さて、どんな手順だったのでしょうか。

(条件)

- ・7手目4筋の手で詰んだ

出題のことは(担当 Pontamon)

7手詰に1条件の年賀詰がありました。ウォーミングアップにどうぞ。

作者ヒント

“初王手”の詰みです。(NAO)

締め切り前ヒント

ノーヒント。7手詰の29手順をおさらいしましょう。

推理将棋146-1 解答

▲76歩、△52玉、▲33角不成、△51金左、▲同角不成、△32銀、▲42金 まで7手

(条件)

- ・7手目4筋の手で詰んだ(7手目▲42金)

詰上がり図

後手の持駒：なし

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	科	爵	丞	角			科	皇	
二		遊		王	金	爵	皇			
三	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩		
四										
五										
六			歩							
七	歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩		
八							飛			
九	香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	

持駒 歩

何手詰であろうとも、攻め駒の中心は角ですので、取った後手の角を支えにして馬を42地点へ移動して詰ませてみたのが参考1図です。後手の左金は飛の横利きを消しつつ、42への利きを外すために62へ移動する協力をしました。残念ながら手数オーバーの9手でした。

参考1図：▲76歩、△34歩、▲22角成、△52金左、▲15角、△42銀、▲32馬、△62金寄、▲42馬 まで9手

参考1図

後手の持駒：なし

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	科	爵	丞	王			科	皇	
二		遊		丞		馬				
三	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩		
四							歩			
五								角		
六			歩							
七	歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩		
八							飛			
九	香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	

持駒 銀

手数オーバーの原因は、▲22角成した馬が42地点へ移動するのに2手掛かってしまうからです。7手では、3手目や5手目に取った駒を最終手の7手目に打って詰ますか、3手目に取った駒を5手目に打って、最終手の支えにす

る手段になりそうです。と言っても、3手目に取り得る有用な駒は角しかなく、参考1図の手順で失敗していますので、今度は5手目に金を取って7手目にその金を打って詰める方針で指してみたのが参考2図です。残念ながらこの形では△62玉と逃げられてしまいます。

参考2図：▲76歩、△34歩、▲22角成、△32金、▲同馬、△52飛、▲41金まで7手

参考2図

後手の持駒：なし

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	科	駒	王	金	駒	科	皇		
二				遊		馬				
三	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩		
四										
五										
六			歩							
七	歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩		
八								飛		
九	香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	

持駒 角

参考2図では31の銀が居るために金を42へ打つことができなかつたので52地点と62地点を後手の駒で塞いでもらう必要があつて、手数が足りませんでした。最終手▲42金を目指せば、玉の退路封鎖は62地点だけで良くなり、▲42金を指せるように△32銀の協力をしてもらふ手順が良さそうです。初手から▲76歩、△42金、▲33角不成、△41玉、▲42角不成で金を取って、最終手▲42金を指せるように▲51角不成を指している間に後手は△32銀と飛の利きを止める協力手を指してもらえば詰みになるはずですが。たとえば、先ほどの続きで△62金、▲51角不成、△32銀、▲42金までの手順です。しかし、これでは手数オーバーの9手なので失敗です。

2手縮めるにはどのような工夫が必要でしょうか？角で金を42地点で取り、金打ちの場所を空けるために▲51角不成としている手が無駄だったことに気付けば、正解に辿り着きそうです。つまり、どうせ51への角移動が必

要なのであれば、金取りを42地点ではなく51地点であれば良いのです。

初手から▲76歩、△52玉、▲33角不成、△51金左、▲同角不成の5手目に51地点で金を取ります。最終手で▲42金で詰ますには31地点の銀が邪魔なので、6手目は後手の協力手の△32銀です。この形では52地点に後手玉が居るので飛の横利きは42地点には届いていませんし、62地点は先手の51の角が利いています。金の入手と62地点も抑える▲51角不成が光っています。

それではみなさんの短評をどうぞ。

(短評)

NAOさん(作者)「ありそうでなかった？7手詰1条件。」

■7手詰29手順は無理矢理の1条件で表現可能。DD++さんに推理将棋のトレーニングを受けた時の1問目の課題でした。

諏訪冬葉さん「これしかないとは意外でした。」

■再来年(令和6年)のための予習は終わりましたでしょうか？

斧間徳子さん「この1条件だけで手順が決まるとは少し驚きです。」

■殆どの7手詰は「○○に○○で応じた」という条件で成立するようですが、簡素なものは少ないようです。

飯山修さん「詰み形のおさらい」

■まずはウォーミングアップの7手詰。

けいたんさん「4筋条件はこれしかないのか。綺麗な詰上がり。」

■頭金や腹金は綺麗ですね。

ベベ&ペペさん「この筋はすぐに浮かびました。」

■ 7手詰の詰み上がりは、8手以上の問題の基本や余詰で出てくるので覚えておきましょう。

エレーンさん「52玉～51金左がなかなか見えなかった。」

■このような7手詰の手筋は手数が増えても部分的に出てきます。

RINTAROさん「最終手4筋は1解なんですね。」

■最終手〇筋で限定できる7手詰手順は.....。

緑衾さん「少しだけ考えてしまいました。」

■余詰がないかを考えたのでしょうか。

ミニベロさん「最終手4筋はこれだけでしたか。ということは、2023年はあれしかないね。」

■7手詰ならあれですね。そして再来年はあれです。

原岡望さん「嬉しいサービス問題」

■全員正解の第1問でした。

ジェシーさん「この条件でこの形しかないのですね。」

■最終手4筋の7手詰はこれだけです。

はなさかしろうさん「7手を時々お浚いするのが楽しいです。最初▲42角が浮かびましたが、あれは31角成 or 馬まででしたね。」

■「4筋着手があった」だと▲53銀までの手順なども。31馬までの手順だと、▲76歩、△34歩、▲22角成、△52金左、▲42角、△41玉、▲31馬 ですね。この手順は最終手の棋譜指定の1条件が可。

正解：15名

諏訪冬葉さん 斧間徳子さん NAOさん
飯山修さん 中村丈志さん けいたんさん
ベベ&ペペさん エレーンさん RINTAROさん
ティエムガンバさん 緑衾さん ミニベロさん
原岡望さん ジェシーさん はなさかしろうさん

146-2 初級 諏訪冬葉 作
新春9-2 問題 9手

「今年の初対局は9手で勝ったよ」
「わーすごいね」
「最終手は11の駒を22に動かしたんだ。22年1月1日にふさわしいだろ」
「わーすごいね」
「7手目は77におまけの文字がつく手。景気よさそうだろ」
「わーすごいね」
「お前『わーすごいね』しか行ってなくね？」
「わーすごいね」
「・・・」
さて、どんな手順だったのでしょうか。

(条件)

- ・9手で詰んだ
- ・7手目は77で補助記号がある手
- ・9手目は11の駒を22に動かした

出題のことば (担当 Pontamon)
年賀条件でお馴染みの11と今年の22が入った最短手数問題です。

作者ヒント
7手目の駒と補助記号は何でしょう。(諏訪冬葉)

締め切り前ヒント
補助記号が付く7手目の77地点へ着手した駒が22地点の最終手を支えます。

推理将棋146-2 解答 担当 Pontamon

▲76歩、△34歩、▲22角不成、△42玉、▲11角不成、△32玉、▲77角打、△42銀、▲22角引成 まで9手

(条件)

- ・9手で詰んだ
- ・7手目は77で補助記号がある手 (7手目▲

77 角打)

・9 手目は 11 の駒を 22 に動かした (5 手目▲ 11 角不成、9 手目▲22 角引成)

詰上がり図

後手の持駒：なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	龍	玉		玉		科		一
	飛				龍	王	馬		二
歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	三
						歩			四
									五
		歩							六
歩	歩	角	歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
							飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

持駒 香

補助記号が付く 77 地点への着手を考えてみます。後手の着手ならいろいろありそうですが、先手の着手となると、飛や角を後手陣から 77 へ引いて来た時の成 (または不成) でしょうか。参考 1 図は 73 の飛を▲77 飛不成と引いた後に▲72 飛不成で後手玉を詰めた手順です。飛を引くタイミングが合わず、補助記号付きの 77 への着手は 9 手目で、後手玉を詰めたのは 11 手目です。しかももう一つの条件である 11 の駒を 22 へ移動する手が含まれていないので失敗でした。

参考 1 図

後手の持駒：歩

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	龍	玉		玉	龍	科	皇	一
	飛	飛					王		二
歩	歩		歩	歩	歩		歩	歩	三
						歩			四
									五
歩									六
	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
	角								八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

持駒 角歩

参考 1 図：▲78 飛、△34 歩、▲96 歩、△77 角不成、▲同飛、△42 玉、▲73 飛不成、△32 玉、▲77 飛不成、△22 玉、▲72 飛不成 まで 11 手

飛では 77 への補助記号付き着手を 7 手目に実現することはできないので、対象となる駒は角しかありません。また、11 から 22 へ移動できる駒は玉以外だと、銀、角、馬、龍の 4 種類なので、参考 2 図の手順では 11 へ銀を打つ方針で進めました。7 手目の補助記号付き着手は▲77 角成を指して、最終手は 11 の銀を 22 へ引く▲22 銀成で後手玉を詰めた手順になりますが、13 手の手数オーバーの失敗手順でした。

参考 2 図：▲76 歩、△34 歩、▲22 角不成、△12 香、▲33 角打、△42 金、▲77 角成、△41 玉、▲31 角不成、△32 玉、▲11 銀、△41 金、▲22 銀成 まで 13 手

参考 2 図

後手の持駒：なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	龍	玉		玉	角	科		一
	飛					王	全	皇	二
歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	三
						歩			四
									五
		歩							六
歩	歩	馬	歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
							飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

持駒 なし

参考 1 図の飛にしても参考 2 図の角にしても 77 地点への着手に付く補助記号は「成」でも「不成」でも関係ない手順になっています。飛では 7 手目に 77 地点への補助記号付き着手はできないので、駒種は角であることに間違いは無いはずですが、「成」と「不成」が限定されないことが不思議です。「成」や「不成」以外の補助記号で角の着手に付く可能性があるものに「右」や「左」、「上」があります。たとえば、初手から▲76 歩、△34 歩、▲22 角不成、△何か、▲68 角、△何か、▲77 角上などです。22 の角が 77 へ引くと▲77 角引の他に

成か不成が付くので限定されません。角の打ち場所が▲86角なら7手目は▲77角左になります。もう一つの角が22に居るので「右」だけが付く角着手を7手目にはできません。しかし、11に先手の駒が無いので先手の次の9手目で22へ移動することはできません。

7手目の補助記号で引っ掛かっていますが、もう一つ残っていたものがあります。それは「打」です。盤上に自分の角がある状態でその角の利きへ持ち駒の角を打つ手です。3手目に▲22角不成で角を取っていて、7手目に▲77角打をすれば良いのですが、では、5手目は？ 手数オーバーの参考2図では11へ銀を打つために△12香の手が必要でしたが、今回は5手目に自分で▲11角不成を指すことができ、手数削減になります。初手から、▲76歩、△34歩、▲22角不成、△42玉、▲11角不成、△32玉、▲77角打になります。後手玉は▲22角引成で詰まされるように32地点まで移動してきましたが、8手目は玉の退路を塞ぐための協力手△42銀で、9手目の▲22角引成で詰みとなりました。

それではみなさんの短評をどうぞ。

(短評)

諏訪冬葉さん(作者)「77角に補助記号を付けるためには11に生角を置いておく必要がある。それだけの問題です。」

■年賀推理の投稿、ありがとうございました。

斧間徳子さん「7手目77角打を考えると自然に解け、一番易しかった。」

■「打」が見えれば、最終手の地点がわかっているの解図は容易だったでしょう。

NAOさん「7手目は打つ。11と22が入る易しい年賀詰。」

■「5手目は補助記号が付く55への着手」でも成立しますが、元祖フィーバー数字の777が豪勢。

飯山修さん「ゾロ目はサイコロ博打が語源らしいが昔の競馬ではよく使ってた言葉。今は枠連を買う人は少なくあまり使われなくなった」

■出走頭数が多いG1や強すぎる馬の単枠指定を除いて、10頭立ての7-7や8-8は中穴？

中村丈志さん「角を駆使するので読みやすかったです。」

■7手目に▲77飛○はできないので、角2枚の問題でした。

けいたんさん「これは分かりやすかった。」

■詰み場所の予測も容易なので。

ベベ&ペペさん「暗算で2分で解けました。」

■初級問題として優秀な作品でした。

エレーンさん「手数は一問目より長いですが、こちらの方が考えやすかった。」

■手順検索ではなく理詰で解けるので考えやすいです。

RINTAROさん「これはお年玉。」

■解図強豪にはお年玉。

テイエムガンバさん「「77で補助記号がある手」というヒントで補助記号が成か不成かのどちらかとミスリードしてしまいました。」

■7手目の77着手が成でも不成でも次の最終手は11の駒を22へ動かす手なので限定されません。

緑衾さん「22への手までの詰み1つ目ですね。」

■22への手までは全部で3問でした。

ミニベロさん「シンプル条件できれいに限定されています。

棋譜ルールでは、77に{打}が付くんですね。

1 1の角を引いてくる手には、必ず成か不成が付くので、7七角だけでも区別はつきそうですが。」

■▲77角だけだと成や不成を書き忘れた誤記との区別がつかないです。

原岡望さん「素直な問題」

■手順が見えているとどれも素直に思えます。

ジェシーさん「全部の補助記号を間違えずに書くのが一苦労です。」

■将棋ソフトがあると便利なのですが、連盟の棋譜表記と違うソフトがあるのでチト厄介。

はなさかしろうさん「11と22に着手がある詰手順は9手が最短ですね。さらっと解けて年初にありがたいです」

■来年の年賀推理に、「11の着手」「23の着手」「1段目玉が詰んだ」の9手詰なんてのはいかがでしょうか。

正解：15名

諏訪冬葉さん 斧間徳子さん NAOさん
飯山修さん 中村丈志さん けいたんさん
べべ&ぺぺさん エレーンさん RINTAROさん
テイエムガンバさん 緑衾さん ミニベロさん
原岡望さん ジェシーさん はなさかしろうさん

1 4 6 - 3 初級 けいたん 作
4 2 金まで香落ち 1 0 手

「4 2 金まで1 0手で詰みか。香落ちは卒業かな」

「上手角が2回動いたね」

「上手に5～9筋の着手はないな」

さて、どんな手順だったのでしょか。

(条件)

手合い割：香落ち

- ・ 4 2 金まで1 0手で詰み
- ・ 上手角が2回動く
- ・ 上手に5～9筋の着手なし

出題のことば (担当 Pontamon)

手合い割は(左)香落ち。年賀推理に関係がありそうな手は何でしょう。

作者ヒント

割と豪快な手順 (けいたん)

締め切り前ヒント

上手の角は初手から動き、最終手の▲42金は頭金です。

推理将棋 1 4 6 - 3 解答 担当 Pontamon

※図面の「先手」「後手」は「下手」「上手」と読み替えてください。香落ちなので、上手から指し始めます。

手合い割：香落ち

△11角、▲76歩、△12飛、▲33角不成、△42金、▲同角不成、△41玉、▲31角不成、△22角、▲42金 まで1 0手

詰上がり図

上手の持駒：なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1		
香	桂	銀	金	玉	角	飛	桂	香	一	
					金		銀	飛	二	
歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	三	
									四	
									五	
			歩						六	
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七	
							飛		八	
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九	

持駒 銀歩

(条件)

手合い割：香落ち

- ・ 4 2 金まで1 0手で詰み (1 0手目▲42金)
- ・ 上手角が2回動く (初手△11角、9手目△22角)
- ・ 上手に5～9筋の着手なし (初手△11角、3手目△12飛、5手目△42金、7手目△41玉、9手目△22角)

最終手が▲42金だと分かっているので玉位

置や玉の退路を封鎖する地点は容易に想像できます。上手角が2回動くのですが、最終手が▲42金なので上手角の2回目の移動先は△33角であってはいけません。これらを念頭に入れて進めたのが参考1図です。▲42金を支えるために下手は42で金を取った後に▲31角不成で42地点を空け、上手は玉の退路の62地点を△62飛で塞ぎましたが、上手の6筋着手は禁止されていたので失敗です。

参考1図：【手合割：香落ち】△52玉、▲76歩、△62飛、▲33角不成、△42金、▲同角不成、△11角、▲31角不成、△22角、▲42金まで10手

参考1図

上手の持駒：なし

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	科	爵	丞			角	科		
二				飛	王	金		馬		
三	歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	
四										
五										
六			歩							
七	歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	
八								飛		
九	香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	

持駒 銀歩

62地点を下手がカバーしつつ、最終手の▲42金も支えることができる角の位置は51でしょう。参考2図では、上手が51地点で金を渡した際の▲51角不成で62地点をカバーできているので△62飛は不要になっていて、上手角の2回移動も実現できているので成功したと思いましたが、上手が着手できない9筋側の筋は5筋以降だったので参考1図同様に参考2図も失敗でした。

参考2図：【手合割：香落ち】△52玉、▲76歩、△11角、▲33角不成、△51金左、▲同角不成、△32銀、▲16歩、△22角、▲42金まで10手

参考2図

上手の持駒：なし

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	科	爵	丞	角			科		
二		飛			王	金	爵	馬		
三	歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	
四										
五										
六			歩						歩	
七	歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩		
八								飛		
九	香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	

持駒 歩

最終手が▲42金の場合、飛の横利きがあるので玉位置を52にするのが常套手段だったのですが、6～9筋の着手禁止ではなく5～9筋の着手禁止なので△52玉は指せません。となると△41玉に対しての頭金の▲42金で仕留める必要がありそうですが、飛の利きを無くすミッションが発生します。下手の着手は5手しかないので、▲76歩の他に必要な手は、金を取る手、飛を取る手、▲42金の合計4手なので5手で行けそうな気がします。しかし、実際には金や飛を取れるのは下手の2回目着手で角成した後に3回目と4回目着手で金と飛を取ることになります。51で居玉のままで▲42金を打っても62地点の逃げ場があるため、どうしても上手玉は41への移動が必要です。となると、32や42で金や飛を角成や馬で取る手が王手になってしまい、手順が成立しません。

上手の飛の利きを無くすために飛を取ることを考えたのが間違いだったようです。上手は1～4筋の着手しかできないのですが、△12飛へ移動して22地点を他の駒で抑えれば飛の利きを外すことができそうです。12への飛移動の邪魔をしている22の角を先に移動させ、△12飛のあとに△22銀や△22角で飛の利きを遮ることができます。上手の角着手は2回という条件があるので、22地点で飛の利きを遮るのは角になるでしょう。

初手から、△11角、▲76歩、△12飛、▲33角不成、△42金、▲同角不成、△41玉の次の手では42地点に利きがある31の銀を取る▲

31 角不成で、次の△22 角で 12 の飛の利きを
遮れば▲42 金までの詰みとなります。

それではみなさんの短評をどうぞ。

(短評)

けいたんさん (作者)「香落ちは 1 1 角を指し
たいところ」

■既投稿作を年賀用に修正しての出題でした。

諏訪冬葉さん「146-1 と同じ手順+角の無駄手
で行けるかと思ったら 5 筋の手がなくて撃
沈。」

■上手の右側の筋の手が禁止ですが、5 筋も含
まれていました。

斧間徳子さん「香落ちを活かすには 11 角。角
の往復がユニーク。」

■角の往復でなくて△22 銀を許すと下手の角
位置や角成の非限定が多数。

NAO さん「香落ち一間飛車の協力手。」

■一筋の書き間違い？

飯山修さん「これ迄の駒落ち作品の中の最高傑
作か？ (と言ってもそれほど数は発表されてい
ないが)」

■着手禁止筋ではなく、年賀条件らしく「上手
は 1 筋から 4 筋までの間の着手」が良かったか
な？

中村丈志さん「香落そのものもヒントになりま
すね。」

■初手から可能な△11 角を指せます。

べべ&ぺぺさん「飛車筋が横に効いていると、
4 2 金までの詰みはないと思いました。」

■△62 飛や△52 玉を指せれば詰みがあったの
ですが……。△12 飛は気付き難い好手。

RINTARO さん「4 筋迄の着手しか指せないの
で、飛の横利きを止めるにはこれしかない。」

■△12 飛の発見がミソ。

テイエムガンバさん「香落ちならではの初手と
3 手目。」

■これらの大駒着手が豪快な手順。

緑衾さん「11 角は出るだろうなと思ったら出
ました」

■はい、初手からの出番でした。

ミニベロさん「香落ちならではの手順。」

■香落ちでないと△12 香、△11 角は出来て
も、△12 飛は中々できません。なので△12 飛
は気付き難い。

原岡望さん「香落特有の手筋」

■香落ならではの初手でした。

ジェシーさん「「5～9 筋の着手なし」は意外
と厳しい縛りですね。」

■6 筋着手と 5 筋着手を取り上げないと失敗例
の解説ができませんでした。

はなさかしろうさん「上手角が 11 と 22 に。」

■明示されていませんが、解いて分かる年賀条
件。

正解：13 名

諏訪冬葉さん 斧間徳子さん NAO さん
飯山修さん 中村丈志さん べべ&ぺぺさん
RINTARO さん テイエムガンバさん 緑衾さ
ん ミニベロさん 原岡望さん ジェシーさん
はなさかしろうさん

146-4 中級 NAO 作
2022年の指し初め 11手

「初手と2手目は同じ種類の駒を同じ筋に指していたね。その後、11地点の手に対しては1筋の手で応じていたけど、あの将棋どうなった」

「11手目に22地点の小駒の手を指したら、それが初王手で詰んじゃった」

「2022年元旦に相応しい指し初めの一局だね。今年もよろしく」

さて、どんな手順だったのでしょうか。

(条件)

- ・11手目22地点の小駒の手が初王手で詰んだ
- ・11地点の手に対し1筋の手で応じた
- ・初手と2手目は同じ種類の駒を同じ筋に指した

出題のことば (担当 Pontamon)

1筋の端攻めもにありますが、後手玉の位置はどこになるのでしょうか。

作者ヒント

"隅と端の攻防"が見所です。(NAO)

締め切り前ヒント

最終手は11の駒が22へ成ります。斜め後ろへ動ける小駒はあれしかありません。

推理将棋146-4 解答 担当 Pontamon

▲48玉、△42玉、▲96歩、△32玉、▲97角、△54歩、▲31角不成、△12香、▲11銀、△14歩、▲22銀成 まで11手

(条件)

- ・11手目22地点の小駒の手が初王手で詰んだ (11手目▲22銀成)
- ・11地点の手に対し1筋の手で応じた (9手目▲11銀、10手目△14歩)
- ・初手と2手目は同じ種類の駒を同じ筋に指した (初手▲48玉、2手目△42玉)

詰上がり図

後手の持駒：なし

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	科	爵	丞		丞	角	科		
二		遊					王	全	皇	
三	歩	歩	歩	歩		歩	歩	歩		
四					歩				歩	
五										
六	歩									
七		歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	
八						玉		飛		
九	香	桂	銀	金		金	銀	桂	香	

持駒 角

22地点への小駒着手で詰んだとのことですが、先手の2筋の歩を5手進めて行って▲22歩成までの手の他に▲76歩があれば88の角で支えることができそうですが、1筋着手を課されているので、飛先の歩を突き進める手筋では無さそうです。では最終手で▲22香成ではどうでしょう？香入手のために1筋着手もあるので良さそうな気がします。参考1図はこの方針で指してみた手順になります。11手目の▲22香成で詰んでいるのですが、「11地点の手に対し1筋の手で応じた」(この場合、後手が1筋着手で応ずる必要がある)が実現できていません。もし5手目の▲11角不成に対して6手目△14歩だと、△33桂を指すことができないため▲22香成の後に△33玉と逃げられてしまいます。それに初手と2手目の条件も満たしていませんでした。

参考1図

後手の持駒：なし

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	科	爵	丞		丞			角	
二		遊				遊	王	杏		
三	歩	歩	歩	歩	歩	歩	科		歩	
四							歩			
五										
六			歩							
七	歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	
八								飛		
九	香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	

持駒 角歩

参考1図；▲76歩、△34歩、▲22角不成、△42玉、▲11角不成、△32玉、▲26香、△42銀、▲23香不成、△33桂、▲22香成 まで11手

22への最終手の小駒として歩や香が駄目なので残るのは桂か銀。桂の場合は、△12香としてからの△11角に▲14桂で応じて、最終手▲22桂成とする手順が想定されるけど手数がないようです。そこで、最終手を銀だと仮定して詰み形を考えてみます。銀なら▲11銀からの▲22銀成ができるので有望候補と言えそうです。参考2図はこの方針の11手で詰めた手順になります。▲53角不成が王手になってしまうので失敗です。角を表の筋から出て行く▲76歩、△74歩、▲44角、△42玉、▲53角不成も同様です。

参考2図：▲96歩、△94歩、▲97角、△42玉、▲53角不成、△32玉、▲31角不成、△12香、▲11銀、△14歩、▲22銀成 まで11手

参考2図

後手の持駒：なし

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
▲	科	駒	香			香	角	科		一
		銀					王	全	▲	二
		歩	歩	歩		歩	歩	歩		三
▲									▲	四
										五
歩										六
	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩		七
								飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香		九

持駒 角歩

参考2図は失敗手順でしたが、最終手の駒種のことを考慮すると▲11銀からの▲22銀成は最有力候補なので、参考2図の手順を見直して、手順前後が可能なのかを検討してみます。▲53角不成が42の玉に王手を掛けてしまうのが問題なので、もっと早い時点で後手玉を△42玉から△32玉へ進めておければ▲53角不成が王手になることを避けることができそうです。では、△42玉を最速の2手目に指してみます。初手と2手目は同じ筋の同じ駒種の条

件があるので初手は▲48玉になり、2手目から△42玉、▲96歩、△32玉、▲97角とすれば次の▲53角不成では後手玉は32地点にいるので王手にはなりません。次の手は6手目なので△54歩と歩を突けば先手は▲53角不成をしないで7手目に直接31の銀を▲31角不成で取ることができます、8手目から△12香、▲11銀、△14歩と進み、最終手▲22銀成での詰みとなりました。

それではみなさんの短評をどうぞ。

(短評)

N A Oさん(作者)「129-2"隅と端の攻防"の年賀バージョンです。」

■意表を突く初手の無駄手追加。

諏訪冬葉さん「76歩から進めたら33がふさがらない。こっちからか。」

■角の裏街道が正解でした。

斧間徳子さん「無駄手の48玉と14歩を条件にしているので非常に解きにくい。今月、解くのに一番時間がかかった。」

■無駄手が初手にあると解き難いです。

飯山修さん「王手なしで銀の捕獲の何と難しいことか」

■11から22へ移動できる小駒は銀しかないのがわかっているけど、その銀入手が難しい。

べべ&ぺぺさん「後手の角は、取られるだけなのですね。」

■使いもしない駒が先に取ると後の展開が面倒ですが、後手角は最後に取りられるだけというのも想定しにくいですね。

RINTAROさん「34歩を突くと33地点がどうしても埋まらないので、9筋に方向転換。」

■△34歩を突かなくても、▲44角経由だと▲53角不成が必要になって手数オーバー。

緑衾さん「この手の問題は無駄手を指すのが定跡なんですかね。」

■攻め手側と玉方での必要手の数に差があると無駄手をどうやって限定して指させるのかが作図のカギになります。

ミニベロさん「端からしか成立しないとは驚き。」

■表通りの▲44角から71の銀を取ると▲22銀成の紐になれず、53経由で31の銀を取ると手数オーバー。

原岡望さん「玉を避難させる」

■早めの玉退避で王手になるのを避けます。

ジェシーさん「角が玉を直射しないようにするのが一苦勞でした。」

■最終手を初王手にするミッションが難しい作品でした。

はなさかしろうさん「待ち手が2手入るけれど9手では詰まない順。年賀条件が綺麗です。」

■先手と後手に1手ずつある無駄手ですが、9手にはならないところが不思議。無駄手ではなく手待ちなのでタイミングが重要なのですね。

正解：12名

諏訪冬葉さん 斧間徳子さん NAOさん
飯山修さん ベベ&ペペさん RINTAROさん
テイエムガンバさん 緑衾さん ミニベロさん
原岡望さん ジェシーさん はなさかしろうさん

146-5 中級 Pontamon 作
2020年(令和4年)の指し初め 11手

「11手で詰んだ指し初めは、2筋と端の手が2回ずつで1筋の手は1回だったね」
「2022年元日らしい差し手だね。あと、令和4年らしく4手目は4筋の手だった」
「駒成や駒取りは2回で、どちらも駒成で小駒

を取る手だったね」
さて、どんな手順だったのでしょうか。

(条件)

- ・11手で詰み
 - ・2筋と端の手は2回ずつ(1筋は1回)
 - ・4手目は4筋の手
 - ・駒成や駒取りは、駒成で小駒を取る2回だけ
- *****

出題のことば(担当 Pontamon)

端の歩と香なら先後で8手可能。端の1手を限定できる状況は?

作者ヒント

3回の3筋の手のうち後手は1手です。

(Pontamon)

締め切り前ヒント

2筋2回は後手の手。3筋の手の連続王手で1筋の玉を詰めます

余詰修正

会話と条件の「駒を取る」を「小駒を取る」に変更

推理将棋146-5 解答 担当 Pontamon

▲76歩、△24歩、▲77桂、△42玉、▲85桂、△32玉、▲93桂成、△23玉、▲33角成、△12玉、▲34馬 まで11手

(条件)

- ・11手で詰み
 - ・2筋と端の手は2回ずつ(1筋は1回)(2手目△24歩、8手目△23玉、7手目▲93桂成、10手目△12玉)
 - ・4手目は4筋の手(4手目△42玉)
 - ・駒成や駒取りは、駒成で小駒を取る2回だけ(7手目▲93桂成、9手目▲33角成)
- 詰上がり図

後手の持駒：なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	爵	帝		帝	爵	科	皇	一
	飛						馬	王	二
圭	歩	歩	歩	歩	歩			歩	三
						馬	歩		四
									五
		歩							六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
							飛		八
香		銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

持駒 歩2

端への1手で、それが詰みに関わって、しかも限定される場合とはどのような時なのかを思い出してみると、9手詰の両王手の手筋での▲92飛を思い出さ方がいるでしょう。9手詰では7筋の歩を突き合うので駒取りは82の飛を取る1手しかありませんが、今回は手数が伸びているので73の歩を取ってから82の飛を取る手順でも良さそうです。この方針で駒を進めてみたのが参考1図です。後手は△74歩を突く代わりに2筋の歩を突き、手数が伸びた分の手でもう1手2筋の歩を突いて、2筋2回着手も限定されましたが、1筋1回着手の条件をクリアできていないので失敗でした。また、駒取り2回は、駒成での駒取りと成駒での駒取りなのでこれも条件をクリアできていませんでした。

参考1図

後手の持駒：なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	爵		帝	帝	爵	科	皇	一
飛				王		馬			二
歩	歩		歩	歩	歩		歩	歩	三
			馬	歩					四
							歩		五
		歩							六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
							飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

持駒 歩

参考1図：▲76歩、△42玉、▲55角、△51

金右、▲73角成、△54歩、▲82馬、△24歩、▲92飛、△25歩、▲64馬まで11手

他に端の1手が限定される状況に心当たりがあるのは、端玉を詰める形です。端の玉を端歩を突いて詰める手筋では端の手が複数になるため失敗しますが、△15玉を▲37桂と▲25馬の連携で詰める形であれば、25地点に利かせる桂の位置も37に限定されるはずですが。この方針で指してみたのが参考2図です。1筋の1手は△15玉で、9筋の1手は2回目の駒成での駒取りになる△99角成です。2筋2回の手は端へ行く玉が2筋を通る手と最終手の▲25馬の2手で、計画通り詰めることができたのですが手数オーバーの13手でした。

参考2図：▲76歩、△34歩、▲44角、△42玉、▲53角成、△33玉、▲36歩、△24玉、▲37桂、△99角成、▲35馬、△15玉、▲25馬まで13手

参考2図

後手の持駒：香

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	爵	帝		帝	爵	科	皇	一
	飛								二
歩	歩	歩	歩		歩		歩	歩	三
						歩			四
							馬	王	五
		歩				歩			六
歩	歩		歩	歩	歩	桂	歩	歩	七
							飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀		香	九

持駒 歩

参考2図での端玉は15地点でしたが、この詰み形では玉位置が14でも詰んでいます。中段玉の場合は玉位置が限定されないようです。中段玉ではなく、玉位置が12地点であれば、他の1筋の駒を動かす必要もなく、玉位置は12地点に限定することができます。12へ行くには△33桂で通り道を空けての△21玉経由か、22の角を移動しての△22玉経由で△12玉へ行き、2筋の残り1手の手は最終手の手だと想像できます。詰み形は、3筋の馬と▲21

銀または▲22 金や 22 への成駒着手での組み合わせがありそうですが、どれも手数オーバーになってしまいます。△12 玉を詰ますことが出来そうに無い気がしてきましたが、△12 玉への道がもうひとつありました。それは、△24 歩と突いてから△23 玉経由で△12 玉とする経路です。この手順では2筋2回着手を使い切っているのです、最終手として▲23 銀などの手を指すことはできませんが、この端玉と2筋の歩の配置から閃く詰み形として馬単騎の詰みがありました。

馬単騎詰なら、▲76 歩、▲33 角成、▲34 馬の3手で△12 玉を詰めることができます。4手目は4筋の条件があるので、後手着手は△24 歩、△42 玉、△32 玉、△23 玉、△12 玉の5手です。1筋1回と2筋2回の条件をクリアしているので残る条件は9筋の着手1回と駒成での駒取り1回です。

先手と後手の着手タイミングをみてみると、最後の4手は、△23 玉、▲33 角成、△12 玉、▲34 馬になるはずなので8手目の△23 玉までに9筋の着手1回と駒成での駒取りが先手に課せられているミッションとなります。初手▲76 歩は必然なので先手の残り3手で9筋の着手と駒成での駒取りをする必要があります。▲76 歩を突いてあるので残り3手で▲73 歩成はできますが、9筋着手ができません。9筋着手と駒成での駒取りを同時にできればいいので、ここは桂の出番です。▲77 桂、▲85 桂、▲93 桂成の3手で9筋の着手1回と駒成での駒取りのミッション完了です。

なお、元条件での余詰ですが、参考1図では大駒の飛を取りましたが余詰手順では角成で22の角を取って、その角を打ってから他の駒を角成で取るという手順でした。

余詰手順例：▲76 歩、△34 歩、▲22 角成、△42 金、▲24 角、△62 玉、▲42 角成、△72 金、▲18 香、△92 香、▲52 金 まで11手

それではみなさんの短評をどうぞ。

(短評)

諏訪冬葉さん「ヒントから後手の手はほぼ確

定。12 玉に34 馬で詰ますとヤマをはったまではよかったが、端の手と小駒を取る手が見つからずに苦戦。」

■12 玉を34 馬で詰ます形が見えてしまい、▲93 角成から▲66 馬、▲33 馬、▲34 馬の手順の罠に嵌まって、小駒を駒成で取るミッションをクリア出来なくなった感じでしょうか。

斧間徳子さん(余詰解)「作意順は難しいため、取りあえず修正前の余詰順を送ります。」

■斧間徳子さんの余詰手順を解説で紹介させていただきました。

NAOさん(双方解)「角取りを封じられて手が見えなくなった。攻方2手+受方5手、2手遊び手の入る10手詰の筋に、端の小駒を成って取るため更に遊び手を加えるとは巧みな条件付けです。」

■本問を作図した当初の条件は「1筋1回、2筋2回、3筋3回、9筋1回」と「駒成で歩を取る手が2回」だったのですが、年賀条件としての印象が薄い「3筋3回」を消し、更に駒種の「歩」を消してしまったので余詰になってしまいました。粗検、申し訳ありませんでした。

飯山修さん「先手の3手の無駄手で9筋の歩を取るの面白い」

■無駄手を消費させる工夫を考えるのも作図の楽しみのひとつ(担当コメント用に思い付いた条件を一旦書いたけど本気で検討します)

ベベ&ペペさん「ヒントを見て解けました。難しいですね。93桂成りが見えにくかったです。」

■全部ばらす訳に行かないので、ヒントでも最後まで隠しておいた▲93桂成でした。

RINTAROさん「難解。ヒントなしじゃ解けなかったでしょう。」

■端の1手の限定が解図の糸口でした。

テイエムガンバさん「中間ヒントと締め切り前

ヒントで後手の着手は確定。ただ、9筋の先手の着手の内容が思いつかず、時間ばかりが経過する展開に。それにしても、9筋の手が先手の桂だったとは……。」

■歩の遅早と対をなす、足の早い桂をお忘れなく。

緑衾さん「詰み形は分かったのですが桂を使うのが盲点でヒント待ちになりました。条件が上手かったんですね。」

■短評を拝見すると解答強豪の皆さんが結構▲93角成の罠に嵌まっていたようで驚いています。

ミニベロさん「単騎詰だと思ったけど、条件満たせない。ギブアップです。」

■早見えの思い込みによる馬作成を急いだ▲93角成で歩を取ったクチでしょうか。

原岡望さん「仕留める前の準備工作」

■角道が空いていれば▲33角成と▲34馬の2手で詰むので、3手の準備工作が必要。

ジェシーさん「これは延々悩み続けました。何と3手も無駄手とは！」

■馬単騎が思い浮かぶまでの苦しみから解放された途端の気の緩みを突く罠もありました。

はなさかしろうさん「先手の待ち手が3手もあるとは。難問でした。」

■待ち手（無駄手）が多いと解図が難しくなりますね。

正解：11名

諏訪冬葉さん 斧間徳子さん NAOさん
飯山修さん ベベ&ペペさん RINTAROさん
テイエムガンバさん 緑衾さん 原岡望さん
ジェシーさん はなさかしろうさん

146-6 中級 ミニベロ 作
2022年は2尽くしで 11手

「2022年の年賀推理を作ったよ」
「令和4年と言わないところを見ると、2尽くしだね」

「ご明察。成る手はなく、小駒の不成が2回あるんだ」

「まずは一つ目」

「後手の指し手は二つの筋だけで、交互に着手するんだ」

「二つ目の2だね。それから？」

「飛車の手があったね」

「それ、2と何か関係あるの？」

「……」

さて、どんな手順だったのでしょうか。

(条件)

- ・11手詰
- ・成る手はなく、小駒の不成が2回あった後手の指し手は二つの筋だけで、交互に着手した
- ・飛車の手があった

出題のことば (担当 Pontamon)

年賀条件に令和4年の"4"は無く"2"だけの条件作です。

作者ヒント

2尽くしです (ミニベロ)

締め切り前ヒント

先手は2筋のみの着手で、後手は3筋と4筋の交互着手です。

推理将棋 146-6 解答 担当 Pontamon

▲26歩、△34歩、▲25歩、△42玉、▲24歩、△32玉、▲23歩不成、△42飛、▲22歩不成、△33桂、▲21角 まで11手

(条件)

- ・11手詰
- ・成る手はなく、小駒の不成が2回あった (7手目▲23歩不成、9手目▲22歩不成)
- ・後手の指し手は二つの筋だけで、交互に着手した (2手目△34歩、4手目△42玉、6手目△32玉、8手目△42飛、10手目△33桂)
- ・飛車の手があった (8手目△42飛)

詰上がり図

後手の持駒：なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	爵	丞		丞	爵	角	皇	一
					王	王	歩		二
歩	歩	歩	歩	歩	歩	科		歩	三
						歩			四
									五
									六
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	七
	角						飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

持駒 歩

解図の方針として検討すべき手順として7手詰の手詰の詰み形が挙げられるでしょう。7手詰手順で一番多い最終手は▲53銀の形です。銀の場合は敵陣内の移動で不成ができるので本問の解図方針として検討してみる必要があります。参考1図では、▲97角から▲31角不成で銀を取り、その銀を打ってから2回の不成移動で53取点へ向かいます。後手は△62玉からの△52玉や△62銀からの△51銀で玉の退路を塞ぎます。この手順では小駒の不成が2回を達成できていますが、飛の着手が無いので失敗です。

飛の着手が無かったので△62銀のところ△62飛とし、続けて▲42銀不成、△51金左、▲53銀不成の場合は41が空いているので5手目を▲31角成にする必要があるのも失敗です。

参考1図

後手の持駒：なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科		丞	爵	丞	角	科	皇	一
	飛			王			皇		二
歩	歩	歩	歩	銀	歩	歩	歩	歩	三
			歩						四
									五
歩									六
	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
							飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

持駒 なし

参考1図：▲96歩、△54歩、▲97角、△62玉、▲31角不成、△52玉、▲51銀、△62銀、▲42銀不成、△51銀、▲53銀不成 まで11手

参考1図では飛の手が無かったので、今度は飛の着手に気をつけて指してみます。参考1図の△62銀を△62飛にただけでは空いている51地点を埋めるために△51金左と寄ったので41が空いてしまいました。そこで参考2図の手順では、41地点を空けないために51地点を埋める手を△51金右にして、その手で空いた61地点を△61飛で埋める手順にしてみましたので1段目に空いている地点は無く、銀を取る▲31角も不成で済みましたが、小駒の不成の手は▲53銀不成の1手だけになってしまったので失敗です。

参考2図

後手の持駒：なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	爵	丞	丞	角	科	皇		一
				王					二
歩	歩	歩	歩	銀	歩		歩	歩	三
				歩					四
									五
		歩							六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
							飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

持駒 角歩

参考2図：▲76歩、△52玉、▲33角不成、△62飛、▲22角不成、△51金右、▲31角不成、△61飛、▲42銀、△54歩、▲53銀不成 まで11手

最終手が▲53銀の形での詰みは無さそうなので、他に検討すべき基本的な詰み形は、はてるま手筋の間龍や飛先の歩を突き進む手順になります。はてるま手筋では飛成が必要になるので本問では除外できそうです。飛先の歩を突き進める手順では玉の最終位置は3筋で、飛の着手は玉の退路を塞ぐ△42飛になります。つまり、後手が指せる筋は4筋と3筋の2つの筋で、これらの筋を交互に指すことになります。4筋着手としては△42玉と△42飛の2手は確

定していて、3筋の△32玉もありそうなのですが、駒成無しで先手の飛先の歩を進めて行っても、歩だけでは3筋の玉を詰ますことはできません。小駒の不成が2回とのことなので、▲23歩不成と▲22歩不成の2手がありそうですが▲21歩成が禁止されているので△31玉を21のと金で詰ます形では無さそうです。▲23歩不成で取った持ち駒の歩は使えないので、▲22歩不成で取った角を打つくらいが残された先手の手になります。打つ角を支える必要がありますが、28の飛の利きで▲23角をすると22の歩が守られていなくなります。となると22に居る歩が利いている21地点へ角を打つ手だけが残ります。21へ角を打つには初期配置の桂が居なくなっている必要があります、後手が指せる筋は3筋と4筋なので、必然的に△34歩からの△33桂の2手で21地点を空けることになります。そうすると▲21角で詰まされる後手玉は△32玉のはずです。整理すると、後手着手は3筋の△34歩、△33桂、△32玉と4筋の△42玉、△42飛の5手です。3筋が3手で4筋が2手なので交互着手であれば最初の後手の手は3筋になります。

初手から、▲26歩、△34歩、▲25歩、△42玉、▲24歩、△32玉。この△32玉を△33桂よりも先に指して置かないと交互着手の次の手になる△42飛を指せません。7手目から▲23歩不成、△42飛、▲22歩不成、△33桂、▲21角で詰みとなりました。

それではみなさんの短評をどうぞ。

(短評)

ミニベロさん(作者)「難問揃いの中・上級だから、ここで一息ついて下さい。」

■タイトルがヒントになっていることに気付くまでは一息ついて居られません。初手▲76歩の検討だと畏に嵌まってしまいます。

諏訪冬葉さん「先手が2筋だけ」「飛車が動いた」といえば7手の例の手順。あとは桂馬をどかすだけ。」

■締め切り前ヒントは甘すぎたかな。タイトルから思い浮かばなかった担当は苦労しました。

斧間徳子さん「角で銀を取ってから銀生2回の筋や、飛先を伸ばして21歩成までの筋が詰まらず、21角打に思い当たる。」

■担当も同じ進捗でした。

NAOさん「銀不成を含む手順に惑わされたが、その筋は飛の手で封じられた。解けてみればタイトルが大ヒント、先手2筋着手だけの2尽くし。お見事です。」

■ベテランはやはり▲53銀の形から解図に入るのですね。

飯山修さん「やはり密になるのは良くない」

■2～4筋の密度に驚き。

ベベ&ペペさん「さすがに、「先手が2筋のみ」は大きなヒントです。」

■2筋の歩成ができないという課題だけが残りしました。

RINTAROさん「先手の着手は「2」筋のみ。上手いものです。」

■後手は2つの筋を交互着手だと限定されると、先手の着手筋は自由にできそうなので他の詰み形を想像してしまいます。

緑衾さん「二度の不成は同じ駒だろうとヤマを張って解きました。」

■担当は、▲23歩不成と▲22歩不成の2度でも歩成が禁止されているので詰まないと思い、▲53銀の方を考えてしまいました。

原岡望さん「交互の筋がみそ」

■交互着手の条件でいつも気になるのはどっちが先なのか。

ジェシーさん「困ったときのこの手順。」

■困った時は飛先の歩の手筋と空き王手を考えてみることでですね。

はなさかしろうさん「21角までの2尺くしを実現する33桂が好いですね。」

■条件次第だけどギリギリ間に合った△33桂でした。

Pontamon (担当)

本問が類型になったので、2022年年賀誌展示室の担当作F10「令和4年の指し初め」では作意順を明かしませんでした。

▲26歩、△42玉、▲25歩、△14歩、▲24歩、△13桂、▲23歩不成、△32玉、▲22歩不成、△42飛、▲21角まで11手

自作がありながら本問が投稿されたときに作意が見えなかったのが情けない。着手が1～4筋に限定されていれば簡単ですが、本作の条件だとどうしても初手▲76歩から考えてしまいます。

正解：12名

諏訪冬葉さん 斧間徳子さん NAOさん
飯山修さん ベベ&ペペさん RINTAROさん
テイエムガンバさん 緑衾さん ミニペロさん
原岡望さん ジェシーさん はなさかしろうさん

146-7 上級 緑衾 作
元旦の2局 11手×2

「今日は元旦だから11手目に詰む将棋を指そう。2局にしようか。」

「では僕はどちらも先手で2022年に因んですべての筋の着手回数を0回か2回にするよ。」

そして、着手回数が0回か2回の駒は取らないよ。」

「私は後手で令和4年に因んで4手続けて同じ筋に指すよ。」

1局目は2手目から2局目は4手目からにするね。

そして、着手は4段目以内だけにするよ。」

「予定通り指せたね。どちらも銀の手がなかったね。」

さて、どんな手順だったのでしょうか。

(条件)

- ・11手目で詰む将棋が2局
- ・どちらも先手はすべての筋の着手回数を0回か2回にした
- ・どちらも先手は着手回数が0回か2回の駒は取らなかった
- ・後手は1局目は2手目から2局目は4手目から4手続けて同じ筋に指した。
- ・どちらも後手は4段目以内だけだった
- ・どちらも銀の手がなかった

出題のことば (担当 Pontamon)

先手は西暦条件縛りの着手、後手は元号の年条件縛りの着者の2局です。

作者ヒント

後手が4手続けて指した筋は2局で異なります (緑衾)

締め切り前ヒント

先手の着手は9筋だけが両局で共通していて、一方は9筋の後手陣の2手で、他方9筋後手陣の手を含みません。

出題文修正

「それぞれ」の前提となる語句が無かったため意味が通っていませんでした。

「それぞれの筋」を「すべての筋」に修正しました。

推理将棋146-7 解答 担当 Pontamon

1局目

▲76歩、△94歩、▲66角、△93桂、▲同角成、△92飛、▲同馬、△同香、▲72飛、△64歩、▲63桂まで11手

2局目

▲96歩、△42飛、▲97角、△54歩、▲42角不成、△52玉、▲51角不成、△53玉、▲44飛、△52玉、▲54飛まで11手

(条件)

- ・11手目で詰む将棋が2局
- ・どちらも先手はすべての筋の着手回数を0回か2回にした
- (1局目：6筋、7筋、9筋が2回ずつ 初手▲76歩、3手目▲66角、5手目▲93同角成、7手目▲92同馬、9手目▲72飛、11手目▲63桂)

(2局目：4筋、5筋、9筋が2回ずつ 初手▲96歩、3手目▲97角、5手目▲42角不成、7手目▲51角不成、9手目▲44飛、11手目▲54飛)

・どちらも先手は着手回数が0回か2回の駒は取らなかった

(1局目：4手目△93桂－5手目▲93同角成、6手目△92飛－7手目▲92同馬)

(2局目：2手目△42飛－5手目▲42角不成、4手目△54歩－11手目▲54飛)

・後手は1局目は2手目から2局目は4手目から4手続けて同じ筋に指した。

(1局目：2手目△94歩、4手目△93桂、6手目△92飛、8手目△92同香、10手目△64歩)

(2局目：2手目△42飛、4手目△54歩、6手目△52玉、8手目△53玉、10手目△52玉)

- ・どちらも後手は4段目以内だけだった
- ・どちらも銀の手がなかった

1局目詰上がり図

後手の持駒：角

		馬	馬	王	馬	馬	馬	馬	馬	一
馬		飛						馬		二
	馬	馬	桂	馬	馬	馬	馬	馬		三
馬			馬							四
										五
		歩								六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
								飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香		九

持駒 なし

2局目詰上がり図

後手の持駒：なし

				王				馬		一
										二
										三
				飛						四
										五
										六
歩										七
	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	八
								飛		九
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香		九

持駒 歩

条件が分かりにくかったようですので、本ツインの条件を整理します。

(共通条件)

- ・11手で詰み
- ・先手の着手は3つの筋でそれぞれ2回ずつ
- ・先手の駒取りは、初期状態のままの駒(動いていない駒)や2回移動した駒ではなかった
- ・後手の着手は4段目以内
- ・銀の手は無かった
- ・後手は同じ筋の着手を4手続けた

(1局目と2局目の違い)

1局目

- ・後手の同じ筋の4手連続着手は2手目から開始した

2局目

- ・後手の同じ筋の4手連続着手は4手目から開始した

参考1図の手順では、後手は2手目の4筋着手の後は4手目からの4手を5筋着手にしています。先手は4筋、5筋、9筋の3つの筋をそれぞれ2回ずつ着手していて、駒成も無いのですが、銀を使っているので失敗です。やはり7手詰の▲53銀までの形は余詰手順として最強なようで、本問でも銀の使用を禁止する条件が必要だったようです。銀を使えないとなるとどんな詰み形があるのでしょうか。

参考1図：▲96歩、△42銀、▲46歩、△54歩、▲56歩、△52玉、▲97角、△51玉、▲42角不成、△52玉、▲53銀 まで11手

参考1図

後手の持駒：なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	馬	馬		馬		科	皇	一
	飛			王	角		馬		二
歩	歩	歩	歩	銀	歩	歩	歩	歩	三
				歩					四
									五
歩				歩	歩				六
	歩	歩	歩			歩	歩	歩	七
							飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

持駒 なし

銀が使えないので、次は金や飛を使った詰み形を考えたのが参考2図の手順です。4手目以降は後手は4筋だけの着手なので、4筋以外の手を2手目に指す非限定がありそうですが、2手目は△34歩でない3手目の▲33角不成が動いていない後手駒を取ることになるので△34歩で限定されています。これで2局目が解けたと思ったら、先手は3筋、4筋、7筋の3つの筋にしか着手していませんが、3筋着手が1回で4筋着手が3回になっていたのが失敗です。先手の3筋着手と4筋着手が2回ずつになるように、▲76歩、△32飛、▲33角不成、△42金、▲32馬、△41金、▲72飛、△42金、▲同飛、△44歩、▲41金までの11手だと3手目の▲33角不成が後手の不動の歩を取る手になるので、これも失敗になります。

参考2図

後手の持駒：なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	馬	馬	王	金	馬	科	皇	一
					飛		馬		二
歩	歩	歩	歩	歩	馬		歩	歩	三
					歩	歩			四
									五
		歩							六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
							飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

持駒 なし

参考2図：▲76歩、△34歩、▲33角不成、

△42飛、▲同角不成、△同金、▲72飛、△44歩、▲42飛不成、△43角、▲41金まで11手

本問では詰み形を想像するよりも、参考2図のように先手の着手が3つの筋に2回ずつであることと初期状態の後手の駒を取ることができないという2点から、先手角の経路と取れる駒種を考えてみるのが良さそうです。

注意点を書き出してみます。

- ・1段目の駒は取れない
- ・3段目の歩は取れない
- ・22の角や82の飛は取れない

以上は初期状態の後手駒を取れないということですが、では駒取りできるのはどのような状況でしょうか？もちろん先手角の角道上である必要があるのですが、すぐに思い付くのは42地点と62地点。あとは、△34歩の後の△33桂や△33角を5手目には取りますが、この場合は3筋の着手を4回指すことになるのでこの後は△32銀、△32金くらいですし、▲33角不成が王手にならないように2手目は玉を△52玉とか△62玉へ事前に逃げておくか△42銀としておいて、3筋着手の残り2手を△31金、△32金にはできますが、詰みは無さそうです。73地点での桂取りも居玉への王手が問題になりますし、73へ駒を移動するために△74歩が必要であることから7筋着手を4手指す必要が出てくるので無理なようです。

あとは、▲66角からの▲93角不成で、93地点で香や桂を取る手順です。

△54歩で空いた53地点へ5筋着手で△53金や△53飛とする手順では△52金／飛経由の2回移動した駒になるので53地点での駒取りは無さそうです。(駒取りが7手目になってしまいます)

銀の着手が禁止されているので、31や71の銀が動いた跡へ金が寄って、その金を先手角で取ることはできません。もちろん、動いていない駒を取れないので銀を動かしてから元位置に戻った銀を取るのも条件違反です。

これらを整理すると

- ・△34歩の後の△33桂／角を取る（無理そう）
- ・42地点の金か飛を取る
- ・△54歩で空いた53地点へ金か飛を2回移動して取る（条件に合わない）
- ・62地点の金か飛を取る
- ・△74歩の後の△73桂を取る（無理そう）
- ・△94歩の後の△93香／桂を取る

可能性がありそうで残っている中から、まず、62地点での駒取りを考えてみると、▲76歩、▲44角、▲62角不成の経路になり、△54歩の協力が必要です。つまり後手の着手は5筋と6筋で、どちらかの筋の着手を4手続ける必要があります。先手の62での駒取りまでで既に先手は3つの筋の着手をしてしまっているので、残り3手は4筋、6筋、7筋が1回ずつなので△52玉への頭金の▲53金は指せないし、▲44角に戻ってからの▲62金は△62同銀／飛があるので詰みません。

42地点で駒を取る手順も62地点と同様に先手の着手筋の3つ（3筋、4筋、7筋）が決まってしまうと思いきや、参考2図で失敗した経路の▲76歩、▲33角不成、▲42角不成以外に角の裏道がありました。▲96歩、▲97角、▲42角不成の経路です。▲97角から直接▲42角不成で駒を取るのであれば△54歩があったはずですが。この経路の場合、42で取れる駒は62地点と同様に金か飛ですが62地点との違いは、42で駒を取った時点で先手は9筋と4筋の着手だけなので、もうひとつ別の筋への着手が可能な点です。▲42角不成が王手なので△52玉と逃げた形を見ると、▲51角と▲54飛による飛角サンドイッチの詰み形が思い出されます。初手から▲96歩、△42飛、▲97角、△54歩、▲42角不成、△52玉、▲51角不成までの7手が見えましたが、飛角サンドイッチでは△55歩と突いて空いた54地点への▲54飛を指して詰みになるところですが、残念ながら後手着手は4段目以内の制限があるので△55歩を指すことができません。先手の残り着手は4筋と5筋の着手が1回ずつで、目指している最終手は▲54飛の形なので、9手目を▲44飛へ打ち、最終手で▲54飛で後手の歩を取れば良いことに気付きます。後手の8手目と10手目は5筋の着手をしなければいけないのですが△55歩はできないので52に居る玉を動

かすしかありません。ちょうど2手を掛けて△53玉から△52玉へ戻ればピッタリです。8手目から△53玉、▲44飛、△52玉、▲54飛で2局目の手順が解けたこととなります。

最後に残った駒取り地点の93ですが、▲93角不成で初期配置の歩を取ることはできないので、初手から▲76歩、△94歩、▲66角の次の手は△93香と△93桂のどちらでしょうか？5手目は66の角で93の駒を取りますが、後手の着手は2手目も4手目も9筋だったので、9筋の着手をあと2手続ける必要があります。先手の着手筋は6筋、7筋、9筋の3つの筋が確定してしまっているので、それぞれの筋の着手を残り1回ずつです。後手玉は今のところ居玉の51地点ですが、後手の10手目は9筋以外の筋の着手を1回だけ指せるので、玉移動も可能です。とは言うものの、△42玉では先手が指せる筋の6筋から離れてしまいますし、△52玉を62地点への着手で詰めようと思っても62地点には金銀が利いているので失敗します。△62玉も同様で72地点への着手で詰まないし、61の金や63の歩を取って詰めることもできません。

となると、後手の最後の着手である10手目は玉以外の手なので、居玉を詰める必要があることとなります。先手は5筋の着手はできないので、一番玉に近い筋の6筋への着手で詰める必要があります。しかし、61の金を取る手はできませんし先述のように62地点への手で△同銀や△同金で失敗します。後手玉は金の羽根付きの居玉で、93で取れる駒は香か桂ということなので浮かぶ詰み形に「吊るし桂」がありました。初手から▲76歩、△94歩、▲66角、△93桂、▲同角不成までの5手になりそうですが、後手はこの後に9筋着手を2手指す必要があります。また吊るし桂の最終手は▲63桂が想定されますが、吊るし桂の場合の多くは53地点に金などの駒を配置して2段目への玉移動を抑える必要があります。しかしこの手順では先手は5筋着手ができないので、7筋と9筋の1回ずつの着手で、最終手の後の2段目への玉逃げを抑える必要があります。▲53金などができない状況で2段目への玉脱出を抑えるには飛が便利です。6手目の△92飛を7手目にとって、9手目は残っている着手筋への▲72飛で決まりです。92の飛を取るには先手

の5手目は▲93角不成ではなく▲93角成で7手目は▲92同馬です。10手目は桂の打ち場所を空ける△64歩ですが、8手目の後手の最後の9筋着手は何でしょうか。条件により△95歩はできないので、8手目は△92同香になります。これで全手順が完成しました。

それではみなさんの短評をどうぞ。

(短評)

緑衾さん(作者)「年賀詰向けに作った分けではないのですが、たまたま4絡みだったので年賀詰にしてみました。余詰を同時に消すのに苦労しました。」

■今年もおもちゃ箱への投稿をお待ちしていません。

諏訪冬葉さん「1局目：桂吊るしには53の金駒が必須かと思ったら飛車で間に合った。2局目：金を取る手順ばかり考えていました。」

■銀を使えないので次は金と考えるのは自然。

斧間徳子さん「この条件で「先手は1枚以上の駒を取った」と解釈させるのはどうか。推理将棋は条件が命(条件がすべて)なので、誤解のないような明快な条件にすべきだと思います。」

■解説で書いたように「先手の駒取りは」で文を始めるのが良かったですね。駒取り無しの手順例としては、

▲76歩、△42玉、▲55角、△52飛、▲64角、△51飛、▲77桂、△52玉、▲65桂、△54歩、▲53桂成 まで11手

NAOさん「余詰消しの条件が多くなったが力作。先手2回着手の3つの筋と後手4連続の筋の組み合わせが難しい。

(1)は、後手4連続の9筋が意外。先手の6,7,9筋の攻めとうまく噛み合った。

(2)は、後手4連続の5筋でまさかの玉3回移動が意表の展開。」

■確かに条件数は少し多めになってしまいましたが、狭い4段目内の4手のやり繰りが見どころ。

飯山修さん「1局目：桂で飛車を取り51飛の詰を目指したが4連続同筋の条件がきつく断念。直前ヒントで9筋を知らされようやく到達。2局目：直前ヒントから96歩97角が絶対となればこの筋の到達は容易。」

■銀を使えなくても初期配置の金を取れるのであれば

▲76歩、△34歩、▲46歩、△77角不成、▲同角、△72金、▲52角、△74歩、▲41角不成、△73桂、▲52金 まで11手という手順も可能でした。

べべ&ぺぺさん「今回の一番の難問。手が見えません。」

■どれかの条件に触ってしまう紛れ手順が多いので解図は大変です。

RINTAROさん「完全にヒント頼りでしたが好作。最初に54飛迄の手順があって、余詰探しで63桂迄の手順を見つけられたのでしょうか？」

■作図の経緯は担当にはわかりませんが、捨てるには惜しい余詰手順を別作にすることはよくあると思います。作者の短評からだとも4絡みの2作を合わせて条件付けしたようです。

テイエムガンバさん「推理将棋では頻出の手筋ですが、「後手の着手は4段目以内」という条件により、別の手筋を読んでしまいました。」

■飛角サンドイッチの形は△55歩がある作品が多いので、この形を知っていると対象から外してしまいそう。

ミニベロさん「1局目：9手素材を巧妙な条件で11手に仕上げている。2局目：こちらは10手素材。旨いツインです。」

■9手の63桂までの吊るし桂では△52飛と▲53角の形で、43桂までだと△52飛と▲53角の形の他に▲21馬で桂を取った馬を動かして42地点をカバーし、△52飛と△62銀で退路封鎖する形があるようです。53地点に成駒を配置するイメージが強かったのですが9手では

無理みたいですね。10手だと△57馬や△57桂成に△47/67桂の吊るし桂が可能なようです。

原岡望さん（1局目）「1局目：旨い攻めゴマ入手 2局目：降参 96歩 97角 // 54歩 42/62 飛/金 を試したが駄目でした。残念です。

駒取りの条件は明示した方がよいと思います。対偶というのはちょっと違うような気がします。」

■降参された2局目は、正解への道に入っていたようですが一步及ばなかったのですね。

はなさかしろうさん「どちらも難しかったので締め切り前ヒントを待ちました。1局目は意外に推理将棋で見かけない詰み形かなと思いました。」

■余詰検討ではいつも頭にある形ですが、言われてみると2段目の飛との吊るし桂の記憶がないので調べてみたところ、2015年6月の詰パラに奥野真さんの作品で▲82飛と▲43桂の吊るし桂がありました。同じく奥野真さん作の昨年8月の詰パラ#480が▲12飛と▲43桂での吊るし桂でした。半年前の記憶が無い担当(^_^; *****

正解：9名

諏訪冬葉さん 斧間徳子さん NAOさん RINTAROさん テイエムガンバさん 緑衾さん ミニベロさん 原岡望さん はなさかしろうさん *****

146-8 上級 はなさかしろう 作
2022 寅年の指し初め 20手

「あけましておめでとう！ 指し初めの予行演習してきたよ」

「謹賀新年、待ってたぞ！ それでどんな将棋にするつもり？」

「20手目の2二角引不成で1一の玉を詰ませたい」

「なるほど。でもそれだけでは決まらないね」

「西暦年を12で割って6余るのが寅年だから、

1二への着手に対して本局唯一の6筋への着手で応じたことがある、というのはいかが？」

「……これはまた、こじつけたね。でも解きやすいからそれで投稿しよう」

「というわけで、本年もよろしくお願ひします！！」

さて、どんな手順だったのでしょうか。

(条件)

- ・20手目の2二角引不成（棋譜表記）で1一の玉が詰んだ
- ・1二への着手に対して本局唯一の6筋への着手で応じたことがあった

出題のことば（担当 Pontamon）

年賀詰みらしく11の玉が2022（20手目の22着手）で詰みになります。

作者ヒント

最終手条件から手割がそこそこ導けそう。残る手で最後の王手を躲されないようにします。（はなさかしろう）

締め切り前ヒント

最終手に「引」が付くので31にも角が居ます。22への角引での王手は22の先手の駒を取ることであります。31と22の角2枚では利きがない地点を他の駒で抑える必要があります。

余詰修正

会話と条件で「1二への着手に対して6筋への着手」の「6筋」の前に「本局唯一の」を追加

推理将棋146-8 解答 担当 Pontamon

▲56歩、△12香、▲68玉、△34歩、▲57玉、△77角不成、▲46玉、△88角不成、▲45玉、△79角不成、▲34玉、△88角不成、▲23玉、△32銀、▲12玉、△31角、▲22香、△23銀打、▲11玉、△22角引不成 まで20手

(条件)

- ・20手目の2二角引不成（棋譜表記）で1一の玉が詰んだ（19手目▲11玉、20手目△22角引不成）
- ・1二への着手に対して本局唯一の6筋への着手で応じたことがあった（2手目△12香、3手目▲68玉）

詰上がり図

後手の持駒：香歩

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	桂	銀	金	王	金	銀	桂	玉	一
	飛					銀	銀		二
歩	歩	歩	歩	歩	歩		銀	歩	三
									四
									五
				歩					六
歩	歩		歩		歩	歩	歩	歩	七
							飛		八
香	桂		金		金	銀	桂	香	九

持駒 歩2

条件から、先手玉は11地点に居て、最終手は△22角引不成がわかっています。本問の解図では詰み上がりや途中図を作成して解図してみます。

参考1図

持駒：角歩

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	桂	銀	金	王	金	銀	桂		一
	飛							皇	二
歩	歩	歩	歩	歩	歩		玉	歩	三
						と			四
					と				五
				歩	と				六
				と					七
	銀		と						八
									九

持駒 歩2

参考1図は終盤近くの途中図になります。11地点へ先手玉が行くためには△34歩と23の歩を取り、角道の22経由や金銀飛が利いている32経由から11へ向かうことはできません。となると▲12玉から▲11玉になるはずですが初期配置のままでは12地点へ行けないので後手の△12香があったはずです。

この後手の△12香に対して6筋の着手で応じたのですから、それは▲68玉のはずです。玉が中段へ出ていくにはどこかの歩突きの手が必要です。△12香の直後に▲68玉なので初手はこの歩突きの▲56歩のはずです。参考1図に

配置されている「と金」の地点を先手玉が通って23まで行くことになります。何故なら、後手の最終手は△22角引不成なので、先手角を取る必要があります、△34歩が指されているはずなので先手の玉は▲35玉経由にはできず、▲45玉、▲34玉、▲23玉の経路で歩を2枚取ります。9段目の玉が11へ行くには8手が必要なので歩突きと合わせて9手なのであと1手があるはずです。11に先手の玉が居るのに最終手が22角引不成の手を指せるということは22には先手の駒があって、22へ引いて来る角の直射を避けているはずです。先手が22へ駒を配置できる方法は、参考1図のあとに▲12玉で取った香を▲22香の着手で打つこととなります。

参考1図のままでは▲12玉ができないので、飛の横利きを止める必要があります。最終手の棋譜に「引」が付いているということは1段目に後手の角が配置されていなければいけないのでそれは▲31角です。ところが31には初期配置の銀が居るので、この銀を移動させてからでないと▲31角はできません。飛の横利きを遮るのは銀のようです。▲31角と最終手の▲22角引不成で11の先手玉に王手を掛けた状態では21の桂を取る手や▲12玉と戻る手で逃げるのができそうです。したがって、▲31角を打てるように31地点を空けることと21の桂を守るための一石二鳥の手△32銀が参考1図の直後の手になります。参考1図からは、△32銀、▲12玉、△31角、▲22香で後手角の利きを止めてから▲11玉が可能になります。

参考2図

持駒：歩

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	桂	銀	金	王	金	銀	桂		一
	飛					銀	香	玉	二
歩	歩	歩	歩	歩	歩			歩	三
						と			四
					と				五
				歩	と				六
				と					七
	銀		と						八
									九

持駒 歩2

参考 2 図は、▲22 香を打った局面で、この後は△何か、▲11 玉、△22 角引不成で詰むはずです。18 手目になる「△何か」は何でしょう？ それは▲11 玉、△22 角引不成の後に▲12 玉ができないようにすることです。12 地点を後手の駒で埋めても、先手玉で取られるだけなので、他の駒と連携したうえで 12 地点をカバーする必要があります。それができるのは△23 銀打になります。この△23 銀打ができるように後手は先手の 79 の銀を入手しておく必要があります。また、角は 22 へ引ける地点に居る必要があるため、後手は△88 角不成で先手角を取った後に△79 角不成で銀を取り、再度△88 角不成で戻れば良いはずです。

後手の着手は 2 手目の△12 香の後、△34 歩、△77 角不成、△88 角不成、△79 角不成、△88 角不成と進めれば、参考 1 図の後手の持ち駒に銀が追加された状態になり、18 手目に△23 銀打を指すことができます。

なお、余詰手順は、△77 角不成のあと 88 ではなく△68 角不成としてから△79 角不成で銀を取る手順でした。

余詰手順：▲56 歩、△12 香、▲68 玉、△34 歩、▲57 玉、△77 角不成、▲46 玉、△68 角不成、▲45 玉、△79 角不成、▲34 玉、△88 角不成、▲23 玉、△32 銀、▲12 玉、△31 角、▲22 香、△23 銀打、▲11 玉、△22 角引不成 まで 20 手

それではみなさんの短評をどうぞ。

(短評)

はなさかしろうさん(作者)「粗検申し訳ありませんでした。角のルート、野暮ったいとは思っていたのですが、このタイミングだと 2 通りあるんですね。気付いていれば 68 経路を採用してもうちょっとスマートにしたかったところですね。」

■担当も気付かず、申し訳ありませんでした。

諏訪冬葉さん「最終手を成と勘違いしていたら別解が大量で焦った。」

■最初、担当も△23 銀が非限定だと勘違いしました。

斧間徳子さん「20 手を 2 条件でまとめた傑作。銀を取るために角を悠長に往復させる動きが正月らしくていい。」

■その取った銀で△23 銀打が可能になりました。

NAO さん(双方解)「31 角を置いての角引不成とは見事な 2022 年詰。」

■前後左右に利かない角 2 枚で詰める構想が光ります。

飯山修さん「歩突きと 22 香打確定の為玉の寄り道は許されない。6 筋条件を満たすのはこれしかないのか。」

■唯一の 6 筋着手の条件にしないと余詰手順がありました。

べべ&ぺぺさん「逆算で解こうとしました。論理的な問題だと思います。解けなくて残念です。」

■解説のように途中図や詰み形から逆算は可能でした。

RINTARO さん「12 への着手に対しての 6 筋条件で序奏が分かりました。」

■香が居るままでは▲12 玉を指せないため、いつかのタイミングで△12 香が必要だと思っていたら会話の後半で△12 香の条件が出てきたので玉の経路と最初の玉移動の非限定が氷解しました。

緑衾さん「余詰らしきものを見つける→詰み判定機能で確認→余詰めでなかった というムーブをやらかしてしまったのですが正解扱いになりますか。手順が限定されてるのがかっこいいですね」

■再回答 OK ですのでもちろん正解です。余詰と思われる手順の連絡は遠慮せずに送ってください。

ミニベロさん「たったこれだけの条件で本当に限定されているのか！

詰め上がりの構想も凄いが、さりげなく玉の脱出路を限定する条件がおしゃれ。

久々の名作誕生ですね。」

■12の着手に6筋着手で応じるという条件で後手の手順前後や先手の経路の非限定が解除されています。

原岡望さん「6筋の着手が鍵31角は成れないので棋譜としては22角生でいいのではないかと思います。」

■「不成」があれば「引」は不要という意見ですね。連盟の棋譜表記ルールでは「引」が必要なようです。

正解：10名

諏訪冬葉さん 斧間徳子さん NAOさん
飯山修さん RINTAROさん テイエムガンバさん
緑衾さん ミニベロさん 原岡望さん
はなさかしろうさん

1 4 6 - 9 上級 斧間徳子 作
2022年(令和4年)の指し初め 2 2 手

「元旦の指し初めの将棋、2022年にふさわしく22手で先手玉が詰んだって？」

「新年のお年玉じゃないけど、玉の手が多い将棋だったよ。

先手玉は4回連続で動いて99で詰んだし、後手玉は異なる11カ所の地点に連続で動いたんだ」

「おお、令和4年の1月1日にふさわしいじゃない」

「令和4年といえば、4段目の手がちょうど4回あったよ。駒を成る手はなかったけど」さて、どんな手順だったのでしょうか。

(条件)

- ・ 22手で詰んだ
- ・ 先手は玉を4回連続で動かして99へ移動した
- ・ 後手は玉をすべて異なる11の地点に連続で動かした

- ・ 4段目への着手が4回あった
- ・ 駒を成る手はなかった

出題のことば (担当 Pontamon)

隅玉は11ではなく99ですが、後手玉は11箇所へ動いたとのこと。

作者ヒント

最終手は、先手の78銀を玉で取る手です。(斧間徳子)

締め切り前ヒント

6回の王手のうち後手の王手は2回の空き王手で、後手の最初の王手に対して先手は桂で逆王手を掛けます。

推理将棋 1 4 6 - 9 解答 担当 Pontamon

▲76歩、△42玉、▲33角不成、△同玉、▲98香、△24玉、▲68玉、△34玉、▲78玉、△44玉、▲88玉、△55玉、▲99玉、△65玉、▲77桂、△76玉、▲74歩、△67玉、▲58金左、△77玉、▲78銀、△同玉 まで22手

(条件)

- ・ 22手で詰んだ
- ・ 先手は玉を4回連続で動かして99へ移動した(7手目▲68玉、9手目▲78玉、11手目▲88玉、13手目▲99玉)
- ・ 後手は玉をすべて異なる11の地点に連続で動かした(2手目△42玉、4手目△33同玉、6手目△24玉、8手目△34玉、10手目△44玉、12手目△55玉、14手目△65玉、16手目△76玉、18手目△67玉、20手目△77玉、22手目△78同玉)
- ・ 4段目への着手が4回あった(6手目△24玉、8手目△34玉、10手目△44玉、17手目▲74歩)
- ・ 駒を成る手はなかった(3手目▲33角不成)

詰上り図

後手の持駒：角銀桂歩2

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	龍	玉		玉	龍	科	皇	一
	飛						角		二
歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	三
		歩							四
									五
									六
歩	歩			歩	歩	歩	歩	歩	七
香		王		金			飛		八
玉				金	銀	桂	香		九

持駒 なし

本問の解説も 146-8 と同様に途中図を考えながら解図していきます。

条件から、22 手での後手着手 11 手は全て玉の着手であり、着手地点は全て異なる地点だと分かります。玉の着手だけで王手を掛けて詰ますには初期配置の 22 の角と玉移動による空き王手しかありません。後手玉が中段へ出る際に通常必要である歩突きができないので、先手は▲33 角不成で角を捨てて△33 同玉を經由して中段へ玉が出れるように協力します。一方、先手玉は▲98 香のあとに▲68 玉、▲78 玉、▲88 玉、▲99 玉の 4 手で 99 へ移動することが判明しています。

参考 1 図

後手の持駒：角

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	龍	玉		玉	龍	科	皇	一
	飛						角		二
歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	三
									四
				王					五
		歩							六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
香							飛		八
玉	桂	銀	金		金	銀	桂	香	九

持駒 歩

参考 1 図は上記の内容を反映させた途中図

の予想になります。先手玉が 99 に居るので、後手玉はゾロ目地点の 55 に居て角による先手玉への王手を避けていますが、この後に 6 段目へ玉を移動することはできないので△65 玉の空き王手をするようになります。最終手も玉移動による空き王手ですが、先手玉が王手をかわしたり合い駒を出来ないようにするために後手玉は先手陣への突入が必要です。22 の角の利きを防ぐことが可能な合い駒としては▲88 飛、▲88 銀、▲77 桂、▲66 歩などです。後手玉が中段へ出ていくことができるようにした協力手の▲33 角不成で取った持ち駒の歩もあるので、歩打ちの合い駒が可能な場合も覚えておく必要があります。▲66 歩が出来ないように 67 の歩を取ってしまうと言っても、△66 玉から△67 玉はできないので、△76 玉経由で△67 玉になるでしょう。参考 1 図からは△65 玉の空き王手に▲77 桂で合い駒をしつつ逆王手する手があります。△88 銀で合い駒をする、その後の▲77 銀にしても▲77 桂にしても△77 同玉で取ることができなくなるからです。

参考 2 図

後手の持駒：角歩

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	龍	玉		玉	龍	科	皇	一
	飛						角		二
歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	三
									四
									五
		王							六
歩	歩	桂	歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
香							飛		八
玉		銀	金		金	銀	桂	香	九

持駒 歩

参考 2 図は、▲77 桂の逆王手に対して△76 玉で歩を取った局面になりますが、ここで先手の指す手が分かりません。後手玉は、△67 玉で歩を取ったり、△77 玉で桂を取る手があるのですが…。局面を見ていると先手の持ち駒に歩があるのに気づきました。この後△67 玉で 6 筋の歩を取るとこの持ち駒の歩を使っての△66 歩や△77 歩の合い駒ができてしまうので、参考 2 図の△76 玉までの局面では▲74 歩

指せば良いことに気付くでしょう。この参考 2 図までの先手の着手は、▲76 歩、▲33 角不成、▲98 香、▲68 玉、▲78 玉、▲88 玉、▲99 玉、▲77 桂の 8 手。一方、後手は最短で△42 玉、△33 同玉、△44 玉、△55 玉、△65 玉、△76 玉の 6 手なので 2 手不足しています。4 段目の着手が 4 回だとのことなので参考 2 図の次に指す手の▲74 歩が 4 回目の 4 段目着手にするには、△24 玉、△34 玉の 2 手を△44 玉の前に指せば辻褄が合います。

参考 2 図の後、▲74 歩、△67 玉として、▲88 飛を指せないようにして、飛の利きも遮る協力手▲56 金左の王手に対して△77 玉で桂を取り、▲78 銀の王手を△78 同玉で取る空き王手兼▲89 玉を防ぐ手で詰みとなります。

それではみなさんの短評をどうぞ。

(短評)

斧間徳子さん (作者)「偶然にも 146-8 とツイン (11 で詰む作と 99 で詰む作) になっているのに驚きました。」

■玉の一人旅は年賀詰でよく見掛けますが、来年はどんなものが出て来るのか楽しみです。

諏訪冬葉さん「59 金や 68 銀はギリギリつぶれるのか・・・」

■▲59 金からの▲68 銀は 22 手目の△78 玉の時に▲77 銀の移動合い兼空き王手の逆王手になってしまいますね。

NAOさん「年賀条件フルコース、玉 11 回移動の 22 手詰。歩をどう処理するかと思ったら 4 段目 4 回が上手い。」

■持ち駒の歩での合い駒を未然に防ぐ妙手。

飯山修「2 手延ばしをさせない攻防。74 歩に感心しました。」

■▲66 歩で歩を差し出す手順や△87 玉経由など出来そうで出来ない。

べべ&ぺぺさん「後手は全て玉でしょうが、今

一步、解が見つかりません。」

■玉着手だけで王手を掛けるには空き王手しかないことに気付けば解いて行くことができます。

RINTARO さん「74 歩に気付かず収束苦戦。」

■忘れ易い持ち駒の存在。

緑衾さん「4 絡みの条件が上手いですね。これ手順限定されてるの？と思って解いたら意外にも限定されてました。」

■4 手連続着手で 99 へ行くには先に▲98 香が必要。

ミニベロさん「この詰め上がりは、MIXI 時代に何作かあったが、先手後手共に手順前後や非限定が多く、まとめるのが大変。本作は実に巧妙に限定されている。」

■玉移動による空き王手の手筋でしょうか。

原岡望さん「一石二鳥の 74 歩。無駄合をうっかり危うく誤解」

■4 段目着手 4 回がここにも影響していました。

はなさかしろうさん「手が余りそうな気がしたのですがそれは私のうっかりで、実はぴったり 22 手なんですね。玉はお年玉の玉でしたか。」

■お年玉は 15 個もありました。

正解：10名

諏訪冬葉さん 斧間徳子さん NAOさん
飯山修さん RINTARO さん テイエムガンバ
さん 緑衾さん ミニベロさん 原岡望さん
はなさかしろうさん

(総評)

斧間徳子さん「初級の 3 作は正月向きの易しい作でお屠蘇気分で解けました。11 手詰の 4 作は骨があり、手が限定されている長編 2 作より

難しかったです。」

■長編 2 作の方が考え易かった感がありますね。

NAOさん「手応えのある年賀詰が出揃いました。長編の 8,9 は手が絞られて解き易かったが、11 手詰の 146-5,6,7 が難しく、特に修正後 146-5 が最難問でした。」

■複数作の投稿、ありがとうございました。その中に珍しい 7 手があったので 2 作を掲載させていただきました。

飯山修さん「今回は 1, 2, 3, 8, 9 を解いてヒント待ち。やはり今回もヒントがなければ苦しかった。」

■11 手詰問題がネックでしたか。

ベベ&ペペさん「難問が多かったです。次回は全問正解を目指します。」

■第 1 4 7 回は易問を用意しました。

エレーンさん「推理将棋に挑戦するのは人生二回目です。3,4 問目が解けそうで解けず、もう少し手筋？を知る必要があります。」

■2 月出題の第 1 4 7 回の全問解答を目指してください。

RINTAROさん「時間が無く、最終日に慌てて解きました。当然ヒント頼り。」

■年頭は何かと忙しいですね。

緑衾さん「すぐ解けたのもあったのですがそれでも 9 問は大変でした。」

■年賀詰はお祭りなので投稿作を一挙公開していますが、あまりにも多いようだと来年は複数回は分けようかな。結果稿を書くのも大変ですし。

ミニベロさん「皆さん条件付けが巧みで、幻惑されっぱなし。やっと最終日に全部解けました。」

私が思う優れた条件としては、

- ・詰め上がりを想定させない
- ・一見無関係に思える間接限定
- ・「成る手なし」「初手は・・・」等の単独条件が、別の複合要素を持っている

などなど、いろいろあるが、明らかに平成時代からは進歩していると感じる。」

■推理将棋の黎明期からの先駆者の方々は時代の証人。今後もよろしくご指導ください。

原岡望さん「メ切ぎりぎり雪の日の解答です。10 題は厳しいです。」

■東京の積雪は 2 cm だったと今朝のニュースで言ってました。(2/11 建国記念日)

ジェシーさん「今月はここまでです。」

■146-6 までの解答、ありがとうございます。

推理将棋第 1 4 6 回出題全解答者： 1 5 名

諏訪冬葉さん 斧間徳子さん NAOさん
飯山修さん 中村丈志さん けいたんさん
ベベ&ペペさん エレーンさん RINTAROさん
テイエムガンバさん 緑衾さん ミニベロさん
原岡望さん ジェシーさん はなさかしろうさん

第3回フェアリー入門出題

フェアリー入門の第3回は「協力自玉詰」です。自玉を協力して詰めるというのは独特の感覚が必要かもしれません。投稿は3名の方から5作が届きました。中には難しいものもあるかもしれません。今回はヒントも付けましたのでたくさんの解答よろしくお祈いします。

①駒井めい氏は第1回から連続3回目登場です。手数は4手と短かいですがしっかりとした狙いがあります。初形攻方玉が動ける場所はありませんので34歩を盤面から消すと詰みそうですね。初手の香打の場所がポイントです。

②springs氏は第2回に続いての登場です。4手で持駒2枚ですので攻方の手は持駒を打つ手のみです。16地点に受方の駒の利きが2つある理由をお考えください。

③占魚亭氏も3回連続登場です。こちらもち駒2枚の4手ですので②同様の考え方で解けます。44桂がいかにも跳ねそうですのでそこから組み立てれば解けるとおもいます。

④はspringsさんの2作目です。8手と手数は長いですが、持駒4枚ですのでこちらもち駒の手は持駒を使う手だけです。そして初形を見るとどこかで似たような形を見た記憶がありませんか？そう先月号の協力自玉詰超入門の例題が大きなヒントになると思います。

⑤は占魚亭さんの2作目。ちょっと骨があるかもしれません。解き方のヒントとして攻方玉のここには逃がしてはいけない場所を考えることです。この作だと51地点です。51地点に逃がさないように攻方玉に王手を掛けさせるには龍をどこに持ってくればよいのか？その形を持駒の銀と桂を使って作っていきます。15パズルのような感じですよ。

【ルール説明】

【協力自玉詰】

先後協力して最短手数で攻方の玉を詰める。

解答締切：2022年4月17日（日）

解答送り先：

たくぼん (takuji@dokidoki.ne.jp)

※各作品への短評（長評）をお書きください。

① 駒井めい作

協力自玉詰 4手

9	8	7	6	5	4	3	2	1		
									一	
									二	
						馬			三	
							歩	王	科	四
										五
									玉	六
							銀		歩	七
							香		龍	八
						馬				九

持駒 香

② springs作

協力自玉詰 4手

9	8	7	6	5	4	3	2	1		
								王	一	
									二	
							科		三	
									四	
									五	
								龍	玉	六
										七
										八
										九

持駒 角香

③ 占魚亭作

協力自玉詰 4手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								馬	一
								王	二
									三
						科			四
									五
									六
									七
									八
								玉	九

持駒 飛角

④springs

協力白玉詰 8手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
						王		玉	三
									四
				飛					五
									六
									七
									八
									九

持駒 角桂3

⑤占魚亭

協力白玉詰 8手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								王	一
				龍	玉				二
				銀				龍	三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 銀桂

解付きコーナー① たくぼん

協力白玉詰 6手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
王									五
									六
									七
			龍						八
玉	龍								九

持駒 なし

※ (解答は本コーナー末尾)

第2回フェアリー入門解答

第2回の出題でしたが、解答者は第1回と同様2名という結果となりましたがお二人とも全題正解を達成。占魚亭さんとはもかくまゆさんはフェアリー初心者ながら見事な結果で次回も楽しみですね。

〔解答成績〕 (敬称略)

○:正解 ×:誤解 -:無解

解答者名	1	2	3	4	計
占魚亭	○	○	○	○	4
まゆ	○	○	○	○	4

① 駒井めい作

受先協力詰 4手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
			角	龍					一
									二
				玉	飛				三
						王	歩		四
							魚		五
									六
									七
									八
									九

持駒 歩

52 桂 35 歩 同桂 44 龍 迄 4手

詰上図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
			角						一
				飛					二
				玉					三
					龍	王	歩		四
						飛	魚		五
									六
									七
									八
									九

【作者コメント】

アンピンのために打った駒がピンされるのが狙いです。

★ピンとは、敵の駒が動けないように「釘付け」にした状態のことを言い、それを外すことをアンピンと言います。元々チェスで使う言葉です。

★本作は初心者コーナーの作品にしては高度な狙いがあります。ある程度経験を積んでくると初形をじ〜っと見ていると何となく詰み形が見えてくるようになります。初形を見て 43 桂がいなければ 44 龍で詰むなあと気付けば解けたも同然です。持駒に歩がありますので 35 歩、同桂と 43 桂を移動させるのは簡単だからです。しかしながら初形から（先手の手番だと仮定して）35 歩、同桂としようとする 61 角の利きが 34 玉へ通ってしまいますので出来ません。しかし受先ですので受方が 1 手指せるので 35 歩、同桂が出来る方法を考えます。本作はこの 1 手の謎を解く。これが作者の狙いの 1 手です。方法としてあるのは受方玉が逃げて 61 角の筋を外すか、61 角～34 のラインを遮断する駒を打つ 2 つです。玉が逃げるのは予定の 44 龍までの詰み形が壊れて詰みませんので、遮断駒を打つことになりますね。打ち場所は 52 しかありませんのでそこに打つのですが 53 王がいるので頭が丸い駒を打つしかありません。角は売り切れですので桂に決まります。

作者コメントの「アンピンのために打った駒(= 52 桂) がピンされるのが狙いです。」とありますが、最後 44 龍は 52 桂の利きにあるのでそれが強調されています。

占魚亭

受方 43 桂が 52 桂だったら、ですね。センスがいい。



② springs 作

受先協力詰 4手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
					馬				五
							歩	歩	六
						王	王		七
			飛					飛	八
									九

持駒 角

25 桂 17 飛 同桂生 18 角 迄 4 手

詰上図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
					馬				五
							歩	歩	六
						王	王	料	七
			飛					角	八
									九

【作者コメント】

頭の丸い取駒（桂）を発生させます。なお、角は品切れです。

★本コーナー初登場の springs さんです。今後ともよろしくお願ひします。

★まず初形をじ〜っと見てみます。気になるので 36 からの逃げ道です。この逃げ道対策を考えますとまず浮かぶのは初手 36 に駒を打つ事ですね。しかし逃げ道封鎖で駒を打つとすればこの駒は動かないですよ。となると打つ駒種を限定するのは難しそうです。持駒なしなら 45 角を 36 に移動する手もありそうですが、持駒

ありですので非限定になりそうです。36を埋めないと考えたと持駒角と相まって18角と打つ手が浮かべば正解が近づきます。しかしここで克服しなければならない問題が2つあります。

- ・18角と打つのに飛がいたので邪魔で打てない
- ・17が空いているので17玉と逃げられて詰まない。

この作品の考えど所はここです！

この2つを一挙に解決する方法があるのでしょうか？18飛を消すには17に捨てるしかありません。(28飛は同○と取られたときに58飛の18への利きが遮断されます)その17飛を同○と取らせて18角迄とすれば全て解決しそうです。18角で止めを刺すには同○とした駒が18への利きがあってはダメですので頭が丸い駒となり角は売り切れですので桂に決まります。17飛、同桂生とするための初手は25桂です。いきなり17桂と打てばよさそうに思えますが、その時は28飛と捨てなければならないのでダメ。結局、控えて桂を打って不成で跳ねるという味のよい手順が正解となりました。

占魚亭

退路封鎖駒の出現と邪魔駒消去。本作もセンスがいい。

③ 占魚亭作

受先協力詰 4手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							桂	王	一
									二
									三
								香	四
						桂			五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

22玉 13香成 11玉 23桂生 迄 4手

詰上図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							桂	王	一
									二
							桂	杏	三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

【作者コメント】

センスゼロ (苦笑)

- ★今回、一番簡単だったのは本作です。投稿順に掲載したのですが①にしておけばよかったと反省しております。
- ★ぱっと浮かぶのは13に高い駒を打たしてそれを取って詰ますというものですが、13合、同香生、22玉でどんな駒を取ってもあと1手では詰みません。正解は22玉と逃げて(考えれば普通の手ですね)13香成にまた元の11に玉が戻って23桂生まで。11玉のスイッチバックが見ようによっては面白い順だと思います。

④たくぼん

受先協力詰 12手

持駒 なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				王					一
									二
				歩					三
									四
				香					五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

42玉 52歩成 43玉 53と 44玉 54と
33玉 44と 42玉 53と 51玉 52と
迄 12手

詰上図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				王					一
				と					二
									三
									四
				香					五
									六
									七
									八
									九

★WFP2010年1月号に「果報は寝て待て」という課題コンクールが開催されました。そのときの条件が「受先形式なの協力詰ならN手、通常の協力詰ならN+3手以上で詰む図を作れ。ただし、両者の詰上りは（持駒を含めて）同一であること」でした。本作はその課題に当てはめればで-11手という事になります。

受方が先に逃げるのですから手数が伸びて当たり前ですよね。

協力詰1手&受先協力詰12手としてもよいかと思えます。

詰上りが予想できる作品の解き方としては、中長編の協力詰を解く時の手法でまず初形から手数ある程度進めて、詰上がりからも逆算いてそれを合体させるという方法があります。実はこの方法はかなり有効です。頭から考えていき枝が数多くなって行き詰る時には使ってみてください。

本作は香を成って成香とと金で詰まそうとすると限定できません。(これはあるあるですのでおぼえておきましょう。止めの1手の地点は利きがダブっているのですどちらの駒でも行けるから)香が成らずに不動ということであればこの収束しかありません。本作の手順は中長編の収束で出てくる場面もありますので覚えておくとよいでしょう。

占魚亭

11手かけて53歩を53と金にしたことにな

る。この玉繰りは憶えておくと役立つことがあるかもしれませんね。

まゆ

私は4作品の中でたくぼん様の作品が1番好きです。まるで鬼ごっこをしているかのような動き。一瞬の隙をついて7筋に…捕まりそうに捕まらない。7手目の7三玉は意表をつかれました。息子たちが小学生のころ、お友達と家の敷地で鬼ごっこをしている風景をふと思い出しました。

【総評】

占魚亭

第1回の拙作、61角が正しい図でした(推理的中。流石です!)

まゆ

今回、担当者であるたくぼん様からフェアリー詰将棋の楽しさを教えていただき感謝の気持ちでいっぱいです。協力自玉詰は苦手ですが、第3回も挑戦したいと思いますので、何とぞよろしく願いいたします。



第4回の募集ルールは、打歩協力詰です。前回の協力自玉詰に比べて理解しやすいルールだと思います。

【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

【打歩】

打歩詰以外の詰手を禁手とする。これは先後双方に再帰的に適用される(完全打歩)。

〔補足〕打歩以外の詰を単なる失敗と扱う場合は「単純打歩」と呼ぶ。

協力詰と同じで先後協力して最短手数で受方の玉を詰めるわけですが、最後打歩で詰めないといけないのです。打歩以外で詰めるのは禁手となります。ただそれだけです。分かりやすいですね。

ただ打歩協力詰において少しだけ覚えておいて欲しいのが「打歩詰以外の詰手を禁手とする。これは先後双方に再帰的に適用される」部分で

す。これは完全打歩と呼ばれ、単玉の時は関係ないのですが、双玉の時に関係してきます。

図で説明します。

例題 1

打歩協力詰 1手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							飛	王	一
									二
								玉	三
						飛			四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 歩

まずこの図は 12 歩迄の 1 手詰です。では次の図はどうでしょう。

例題 2

打歩協力詰 1手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							金	王	一
									二
								玉	三
						飛			四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 歩

王手は 12 歩しかありませんが、同金と取られるので詰んでないように思えますね。しかし同金と取られた局面は先手の玉が詰んでいます。打歩のルールを読んでみると「打歩詰以外の詰手を禁手とする。これは先後双方に再帰的に適用される」とありますので、受方の 12 同金は攻方玉を打歩詰以外で詰ましている禁手ということになります。12 同金と出来ないのもこれで詰みです。

ルールの文にある再帰的の説明もしておきます。次の図をご覧ください。

例題 3

打歩協力詰 1手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
飛	飛	馬							七
王									八
			龍	龍					九
玉									九

持駒 歩

これも 98 歩の 1 手詰です。同龍と取れてまだ攻方玉も詰んでいないのですが、その後、同馬、同龍で結局打歩以外で詰まされてしまうので例題 2 同様禁手となります。ちょっとややこしいですが完全打歩ではこのような取り扱いになっています。かつては「法則問題」と呼ばれていました。

この部分だけは分かり難いですので注意が必要です。

では打歩協力詰とはどんなものか？いくつか作品を紹介します。

1983 年 2 月 詰パラ 佐藤伸夫

打歩ばか詰 5手 「ウグイス」

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							王		一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 桂香歩

23 香 12 玉 24 桂 11 玉 12 歩 迄 5 手

詰上図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								王	一
								歩	二
							香		三
						桂			四
									五
									六
									七
									八
									九

まず最初に紹介するのは打歩ばか詰黎明期の1作。題名の「ウグイス」は持駒：歩桂香（ホケイキョウ）から。初手の香打ちの限定打で作品になりました。これぞ打歩ばか詰の1作。

1984年8月 詰パラ 山田嘉則作
打歩ばか詰 7手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						王		王	一
				飛					二
									三
									四
				龍					五
									六
									七
									八
									九

持駒 歩

普通の協力詰と打歩協力詰の違いをどう表現するかが作品創りの骨子となると思います。

本作はレジェンド山田さんの作品ですが、さすがの構想を見せてくれます。

作意は、12歩 同玉 42龍 32歩 同龍 11玉 12歩 迄

持駒に歩がありますのでこの歩を7手目に打って詰ますと誰もが思うところですが、作者はその裏をかいていきなり12歩と歩を捨て、その後再び歩合で歩を手に入れるという驚きの手

順を用意していました。持駒の歩で最後詰ますうとするとどうしても9手かかってしまいます。

続いても山田嘉則さんの作品です。

1987年12月 詰パラ 山田嘉則作
打歩ばか詰 7手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						龍	角	王	一
								歩	二
								王	三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

12角生 21飛 22龍 同飛 21角成 同飛
12歩 迄 7手

今度は12歩を取って最後12歩で詰めるストーリーが見えます。しかし攻方が強すぎるのでなかなかその形にもっていけないのです。初手の角不成から21飛合、22龍と捨てて21角成、同飛と全てが攻手という傑作です。

続いては変寝夢さんの作品

2015年1月年賀詰 変寝夢作
打歩協力詰 7手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
				科		歩			四
						王			五
				香		香			六
		龍							七
									八
									九

持駒 歩

どこで歩を打って詰ますか？玉は香2枚で挟まれているので欲しい駒がありますね。

57龍 56銀 同龍 同桂 64銀 54玉 55歩 迄詰上り「エ」のあぶり出しでした。必要そうな龍をぶった切るちょっと意表の手順です。

続いて紹介は、第26回妖精賞短編部門を受賞した上谷さんの傑作です。

2014年2月 詰パラ 上谷直希作
打歩ばか詰7手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
						銀			五
						玉			六
			龍				香		七
									八
									九

持駒 角

18角 27歩 同龍 45玉 67龍 55玉 56歩 迄7手

このパラっとした配置を見て受方玉はどこで詰むのだろうと考えると、多分多くの方は1筋だろうと考えると思います。角を打って歩合を取るだけで3手かかりますので7手で詰ますのは大変に思えます。この詰上りが頭に浮かぶ人はほとんどいないと思うほどの意表を付く詰上りです。



最後に最近の作品を紹介します。

2018年9月 詰パラ 野曾原泰之作
打歩ばか詰9手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
					ス	香		銀	一
						玉		香	二
				ス		桂			三
							と		四
					香				五
								歩	六
									七
									八
									九

持駒 角 銀 歩

98角 87角 22銀成 同玉 21桂成 同角成
11銀 同馬 23歩 まで9手

超入門にしてはレベルが高すぎますが、並べてみて素晴らしさを体感してみてください。11を埋めるにはどうすればいいか……。その解決法の見事な手順です。

5手位の入門用例題を探したのですが、ルールの特性上あまりなくて少々レベルの高い作品の紹介になってしまいました。まだまだ打歩協力詰にはいろいろな鉾脈が眠っていそうな気がします。新たな鉾脈を探してみませんか？

作品募集では簡単な入門作品を募集していますので投稿よろしく。



第4回フェアリー入門
【(打歩協力詰) 作品募集】

入門用の易しい打歩協力詰を募集します。

投稿の仕方

〔作者名〕

発表時に記載する作者名をお書きください。
ペンネームでの発表の際はその旨お書きください。

〔ルール名〕 打歩協力詰 ○手

応募の際、ルール名と手数を必ずお書きください。

〔図面〕

初形が分かれば OK です。柿木ファイルや、
Kife for Windows の kif ファイルに手順を打ち込んだものでも OK ですし、

攻方：43 角、56 桂

受方：52 金、53 玉

持駒：なし

のような表記でも構いません。

〔詰手順 (作意)〕

52 角成 同玉 44 桂 51 玉 52 金 迄 5 手

のような表記でお願いします。柿木ファイルや
kif ファイルに手順入力されている場合は上記
記載は無くてもかまいません。

〔狙い〕

作品の狙いがあれば書いてください。

〔作者コメント〕

その他作品に関することや、自身に関するこ
と作品に添えての一言があればお願いします。

〔投稿先〕

メールにて受付します。

たくぼん： takuji@dokidoki.ne.jp

〔投稿締切〕

2022 年 4 月 17 日 (日)

協力自玉詰 解付きコーナー①解答

協力自玉詰 6手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
王									六
									七
		龍							八
玉	龍								九

持駒 なし

76 龍 86 桂 85 龍 97 玉 98 龍 同桂成 迄 6 手

詰上図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
		龍							五
									六
王									七
手									八
玉									九

★玉以外に受方の駒がないので合駒が出るのは
自明の理。先手玉が 99 にいるので受方玉は 97
へ来そうと考えれば解けそうだが実は紛れは多
い。解付にしたのはそんな所に理由がありまし
た。89 龍が無ければ、76 龍、97 玉、77 龍、
87 歩 (非限定)、88 龍、同歩成 迄等の筋があ
り、89 龍→89 銀にすれば、3 手目 87 龍も成
立して余詰ます。

<ルール説明>

【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

【自玉詰】

攻方は自玉を詰めるよう王手を掛け、受方はそれを妨げるよう応じる。

【スタイルメイト】

王手は掛かっているが合法手のない状態にする。

【点鏡】

55に関して点対称な位置にある2つの駒は、敵味方関係なく互いにその性能が入れ替わる。

【Grasshopper】(G)

フェアリーチェスの駒。クイーンの線上で、ある駒を1つ飛び越したその直後の地点に着地する。そこに敵の駒があれば取れる。

【Nightrider】(夜)

フェアリーチェスのNightrider。ナイトの利きの方向に連続飛びができる。

※各題G、夜の総駒数は4の設定です。

<問題>

【16-1】

点鏡協力自玉スタイルメイト4手
 9 8 7 6 5 4 3 2 1

										一
王										二
										三
										四
										五
					王					六
										七
										八
										九

持駒 金G

83金 27G 65G 74G まで4手

占魚亭

3手目が肝。

たくぼん

受方持駒のGをよく忘れて頭を悩まします。やっぱり玉をGにですね。

【16-2】

点鏡協力詰7手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

										一
										二
			王							三
										四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 夜

29夜 37角 同夜 43玉 79夜 67桂 31角
 まで7手

占魚亭

意表の角合。

たくぼん

解けません。フェアリー駒が入ると訳がわからなくなります。

【16-3】

協力詰9手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

										一
										二
										三
								馬		四
								王		五
										六
										七
										八
										九

持駒 G3

23G 14玉 34G 13角 11G 12飛 同G 24角
 13飛 まで9手

占魚亭

受方角のスイッチバックが渋く決まっていますね。

たくぼん

角のスイッチバックもいいですね。

実験室の悲劇(第4回)

占魚亭

駒井めいさん主催の「詰将棋フェスティバル」に参加しました。相変わらずの詰めの甘さを露呈しております。拙作はアレな感じですが他の作品は面白いので、ご覧になってみて下さい。

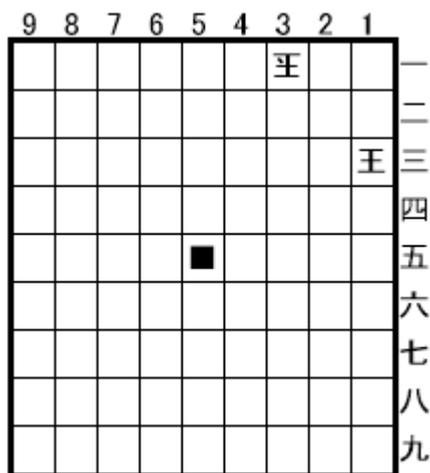
前回に引き続き宣伝を。

『暁将棋部屋』第6号(つみき書店、詰パラ編集部で販売中)のフェアリーコーナー「暁フェアリー」への解答・投稿を募集しています。**解答は今月末、投稿は6月末が締切り**となっております。投稿は客寄せの易作や少し骨のある中級作品だと嬉しいです(難解作でも構いませんが、「正解者なし」になる可能性が高いので)。

送付先は編集・発行の山本氏までということになっていますが、私へ送っていただいて構いません。お待ちしております。

さて、今回の没作も Imitator の Duplex です。

協力自玉詰 6手



持駒 桂

b) Duplex

※■: Imitator

【協力自玉詰(ばか自殺詰)】

双方協力して攻方玉を詰める。

【Imitator(■またはI)】

着手をした時、その着手と同じベクトルだけ動く駒。Imitator が駒を飛び越えたり、駒のある地点に着手したり、盤の外に出たりするような着手は禁止。これは王手の判定にも適用される。

【Duplex】

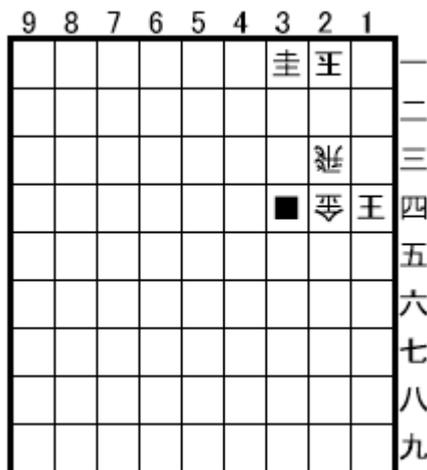
受方(玉方)から指し初めて攻方(王方)を詰ます。

※本作は自玉詰なので、受方から指し初めて受方玉を詰まします。

【手順】

a) 43 桂、21 玉[I45]、31 桂成[I33]、23 飛、14 王[I34]、24 金まで6手。

(詰上り)

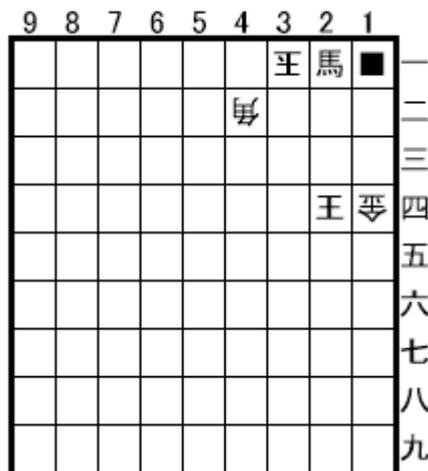


持駒 なし

b) 24 角、同玉[I66]、14 金、76 角、42 角、21 角成[I11]まで6手。

(詰上り)

持駒 飛2角2金4銀4桂3香4歩 18



持駒 桂

2017年6月完成の作品。

a)は普通の手順で特に難しい所はないと思いま

すが、Duplex の b) が少々難物。

まずは前回の作品同様、大駒を渡します。前回は飛車でしたが今回は角。「Imitator は盤隅に」に則り、隅に運ぶために必要な駒です。3手目は 14 金(飛車だと 21 角成 [I11]) に 17 飛成 or 生 [I14] が成立)。76 角の壁駒受けには 42 角と王手兼退路塞ぎを行い、Imitator を 11 に運ぶ 21 角成で詰みです。

後半3手が気に入っていますが a) の手順が平凡なのと、前回の作品同様に Duplex で攻方(王方)の持駒が残るのが不満なので没にしました。b) の図を上下反転させて単体で発表することも考えましたが、やめました。

前回も書きましたが Duplex での持駒の扱いは悩ましい所で、どういう形にするのがベストなんでしょう？ 納得のいくものが完成したら、「WFP 作品展」に投稿しようと思います。

次回は、点鏡 + Imitator + Nightrider を供養する予定です。

コメント等ありましたら、sengyotei@gmail.com (■を@に) までお願いします。

<追記>

本稿を送信しようとしたら、BCPS(英国チェス・プロブレム協会)が当分の間『The Problemist』にロシア人の作品や寄稿を掲載しないという声明を発表しました。ロシアによるウクライナ侵攻の影響がプロブレムの世界にも……。

一日も早く平和な世の中になることを祈念します。

今月の手筋 (解答)

解答

23 桂 12 玉 11 桂成 同玉
13 飛成 12 桂 22 龍 まで 7 手

初手 13 飛成だと、受方は同桂しか応手がないので不詰。事前に持駒を渡しておけば、13 飛成を取らない応手を指させることができる。持駒消去と似ているが、目的は相手にその駒を使って貰うことであり、邪魔な持駒を処分する持駒消去とは異なる。主に協力系ルールで見られる手筋だが、禁欲ルールのように着手に制約条件がある場合は、対抗系ルールでも実現することができる。

適用分野

協力系ルール、他

関連項目 持駒消去



協力詰・協力自玉詰 解付き 出題作品募集

担当：駒井めい

駒井めいと申します。2022年4月号（第166号）より、協力詰・協力自玉詰の解付き出題コーナーを新設し、担当に就任しました。原則は毎号出題し、同号で解答発表と簡単な解説を行っていきます。つきましては、作品を募集します。

〔募集作品〕

協力詰・協力自玉詰。9手以下。

※受先、受方持駒制限、双玉、複数解、ツインは可。

※フェアリー駒など、その他のフェアリーールの追加は不可。

〔投稿先〕

・メール：meikomaivtsume▲gmail.com

※▲を@に置き換えて送信してください。

・TwitterのDM：@MeiKomai_Tsume

上記どちらかの方法で投稿してください。

採否や掲載号については、担当者が確認した後にご連絡いたします。

〔投稿時の送付内容〕

- ・作者名（ペンネーム可）
- ・作品図面
- ・ルール名、手数、ツインなどの問題設定
- ・作意手順
- ・狙いなどの作者コメント（省略可）

〔投稿締切〕

随時受付。2022年4月号（第166号）掲載分は2022年4月15日（金）まで。

〔その他〕

フェアリー詰将棋の検討ソフトとして、fmやfmzaがあります。Onsite Fairy Mateよりダウンロードできます。

<http://k7ro.sakura.ne.jp/>

協力詰、協力自玉詰のルールに詳しくない方は、過去に掲載された入門記事をご覧ください。

- ・協力詰超入門：第162号 p. 53～55
- ・受先協力詰超入門：第163号 p. 54～57

・協力自玉詰超入門：第164号 p. 48～51

〔さいごに〕

フェアリー詰将棋（変則ルールの詰将棋）の世界は広大で、普通の詰将棋とは異なった面白さに満ち溢れています。この面白さを多くの方に知ってもらうためには、誰もが通る入口的な存在が必要不可欠です。一方で、フェアリー詰将棋は年々発展し続けており、その入り口は初学者にとって敷居が高くなっていくとも感じています。こんなにも面白い世界が存在しているのに、知るきっかけを失っている人がいる現状は残念でなりません。このコーナーは、フェアリー詰将棋作家や解答者などの愛好家が増えたいという願いから設立しました。WFPはもちろんのこと、フェアリー詰将棋界が更に盛り上がるきっかけとなることを期待しています。創作初心者からベテランまで、様々な方からの投稿をお待ちしております。

Fairy TopIX2021投票要項

Fairy TopIXとはウェブサイトで開催されたフェアリー詰将棋・推理将棋・プルフゲームを対象にお気に入り投票を行い、上位作に授賞するものです。Fairy TopIX2021は2021年にウェブサイトで開催された作品の中からお気に入り投票によって選ばれます。

【投票宛先】

WFP事務局(たくぼん)宛にメールにてお願いします。 takuji@dokidoki.ne.jp

【スケジュール】

投票開始：2022年4月5日
投票締切：2022年5月10日
結果発表：WFP令和4年5月号(167号)

【対象】

2021年にWeb Fairy Paradise誌に掲載された作品(過去作の紹介作は除く)。なお詳しくは後日発行予定の対象作品一覧で確認下さい。またWFP作品展につきましては神無七郎氏のサイト(OFM)でも全作品動く盤面で鑑賞いただけますのでそちらを参照下さい。

【部門区分】

【フェアリー詰将棋】

短編部門：～15手
中編部門：16～49手
長編部門：50手～
推理将棋・プルフゲーム 手数区分なし

以上4部門となります。

【投票の仕方】

お気に入り投票として実施しますので何作投票していただいても構いませんが、お気に入り上位3作には1位～3位までの明記下さい。投票の際には集計間違いを防ぐため下記の項目を記載いただけると助かります。

- ・部門名
- ・WFP何月号(または何号)
- ・作品展名(またはコーナー名)
- ・(あれば)作品番号
- ・作者名&ルール名&手数
- ・投票作品へのコメント(部門別及び全体通してのコメントも出来ればお願いします)

*なお対象作品一覧には通し番号を打っていますのでなるべくこちらの記載番号でお願いします(推奨)

【投票集計方法】

投票順位に応じて作品毎に下記ポイントを加算し、各部門での合計ポイント順に授賞します。

- 1位：5点、
- 2位：3点
- 3位：2点
- 上記以外：1点

各部門得票数上位3作までが授賞となります。作者に授賞コメントをお願いすることになりますのでご協力よろしくお願いします。

お気に入り投票ですので、全部の作品を見てなくても構いません。お気に入りの作品をお好きなだけ書いて投票いただければ結構です。1票でも得票がある作品はすべて5月号に掲載いたします。今年もたくさんの投票をよろしくお願いいたします。

※なお投票数がなかなか伸びない場合には、昨年投票者の方々にお願いメールをする場合がありますのでよろしくお願いいたします。

※対象作品一覧は4月始めごろHPに掲載しますので今しばらくお待ち下さい。

解答募集一覧

ネットでのフェアリー詰将棋の解答募集締切一覧です。締切日が早いもの順です。解答先は各々異なりますのでお間違えにないように。

2022年3月31日(木)

第1回最後の1ピース作品展

最後の1ピース作品 16題

2022年4月10日(日)

推理将棋 148 回出題

推理将棋 3題

2022年4月15日(金)

第139回 WFP 作品展

フェアリー作品 12題

2022年4月17日(日)

フェアリー入門 (協力自玉詰)

協力自玉詰 5題

2022年5月15日(日)

第140回 WFP 作品展

フェアリー作品 12題

作品募集一覧

フェアリー入門 (打歩協力詰)

投稿締切：2021年4月17日(日)

投稿先：たくぼん (takuji@dokidoki.ne.jp)

(詳細は P71 参照)

第56回神無一族の氾濫

課題：「〇〇だったら1手詰」

募集締切：2022年4月17日(日)

送り先：神無七郎 (k7ro.ts@gmail.com)

※詳細は P13 をご覧ください

Fairy of the Forest #70

課題：自由課題

募集締切：2022年4月15日(金)

送り先：酒井博久 (sakai8kyuu@hotmail.com)

※詳細は先月号 P42 をご覧ください

協力詰・協力自玉詰 解付き出題作品募集

9手以下の協力詰・協力自玉詰

投稿締切：2022年4月15日(金)

送り先：駒井めい

メール：meikomaivtsume▲gmail.com

※▲を@に置き換えて送信してください。

・TwitterのDM：@MeiKomai_Tsume

(詳細は P75 をご覧ください)

【あとがき】

来月号より新たに駒井めい氏による「協力詰・協力自玉詰 解付き出題コーナー」がスタートします。「フェアリー詰将棋作家や解答者などの愛好家が増えたい」という願いから設立」という心意気も頼もしく思えます。発信力がある方ですので、WFPに新しい風を吹き込んでくれることを期待しています。

また最近、ネット上でフェアリー作品を含む作品展がいくつか開催されております。今月要項を出しました FairyTopIX2021 お気に入り投票ですが、候補作はネット上の発表作(WFP掲載が条件)としておりますので WFP に掲載されない場合は候補から漏れるということになります。今後もこのケースは増える事が予想されます。素晴らしい作品は是非 FairyTopIX2021 お気に入り投票候補作としたいと思います。担当者の方、是非 WFP 向けに紹介記事を書いて頂くか転載の許可を頂ければと思います。問い合わせは私までメールでお願いします。

たくぼん

2022年 第165号

Web Fairy Paradise

非売品

令和四年三月号

令和四年三月廿日発行

発行所 愛媛県新居浜市

発行兼編集人 須川卓二

発行所 Web Fairy Paradise 編集部

問合先

須川卓二 takuji@dokidoki.ne.jp